

21世紀における皮膚科診療の基準書

Dermatology

最新皮膚科学大系

Comprehensive Handbook of Clinical Dermatology

全 **19** 卷

+

特別巻3巻

+

別巻総索引・総目次

●
総編集

玉置 邦彦
東京大学教授

●
編集委員

飯塚 一
旭川医科大学教授

清水 宏
北海道大学教授

富田 靖
名古屋大学教授

宮地 良樹
京都大学教授

橋本 公二
愛媛大学教授

古江 増隆
九州大学教授

母巻完結

中山書店

本大系の特色

1 臨床重視のプラクティカルな構成

すべての巻は、独立した単行本としても役立つ構成です。各疾患についての記載は、診断から治療まで、一冊で完結します。

2 第一線の研究者が総結集

皮膚科学の最前線にいる気鋭の研究者440人が執筆。最新の知見を洩らさず収録します。

3 豊富な症例写真

診断の決め手となる症例写真をふんだんに掲載。最新の技術による鮮明な印刷です。

「症例写真供覧」に本大系に掲載されている症例写真の一部を紹介しています。



4 大きな判型，オールカラーで見やすいレイアウト

ひとまわり大きいA4判。各疾患の臨床像が一目でわかります。また、オールカラーでポイントをつかみやすいレイアウトです。

5 疾患の遺伝的背景，遺伝子の関与に着目

多くの疾患で遺伝子異常の関与が明らかになっています。各項目にマキユージックの「Mendelian Inheritance in Man」のアクセス番号を収載。リアルタイムのデータベースOMIM (Online Mendelian Inheritance in Man) の検索を容易にしました。

乾癬

英 psoriasis
同 psora
MIM *177900

完結に際して

最新の情報を盛り込んだ 目で見えてわかりやすい大系

東京大学教授

玉置 邦彦



『最新皮膚科学大系』が完結いたしました。できる限り最新の情報を盛り込んだ、目で見えてわかりやすいという初期の目的はほぼ達せられたように思っております。色彩にも注意を払いましたので、出来上がったものは、どれも図譜にしてもよいような出来ばえになっていると自負しています。米国や欧州で標準的な皮膚科学書と定評を受けているものと比較しても、巻数が多く、図が大きく、きれいという点に加えて、内容的にも、優れたものが多いと思っております。日本語で、日本の症例でしかもその病態解釈の基本になっている情報も、日本で得られたものがいかに多く、質的にも高いかということは、よく読んでいただくと、ただちに理解していただけるところだろうと思います。

本年、マイアミ・ビーチで開催されたInternational Investigative Dermatology (IID2003)においても、日本からの皮膚科学研究が米国、欧州と比肩しうるレベルにあることが明らかになりました。日本の皮膚科学が、臨床面のみならず基礎的、研究的な面においても隆盛に向かっているこのような折に、大系の編者として参加できたことは幸せでした。ひとりでも多くの臨床家にこの成果を味わっていただきたいものと思っております。

推薦の言葉

『最新皮膚科学大系』 の完結を祝う

東京大学名誉教授

久木田 淳



今般『最新皮膚科学大系』全19巻の刊行が完結したことは御同慶の至りであります。

本大系の前身である『現代皮膚科学大系』全20巻33冊は準備期間を入れて約10年間の歳月を要しましたが、今回の『最新皮膚科学大系』は第1回配本「湿疹 痒疹 痒疹症 紅皮症 蕁麻疹」の2002年1月刊行以来、約2年間で全19巻の完結を見たことは驚異的な事であります。

これも本大系総編集の東京大学玉置邦彦教授を始めとして編集委員の諸先生および440名を超えるそれぞれの分野の専門家の先生方の御協力の賜と敬意を表する次第です。

本大系は前大系の完結以来過去20年間の皮膚科学の進歩に対応して、生化学、分子生物学、細胞生物学、免疫学、遺伝子の解析、遺伝子診断の進歩発展、皮膚疾患の病態生理に基づく新しい薬物療法の開発、レーザー医療を取り込んでいます。またA4判に配された大型の臨床写真は極めて鮮明で皮膚病図譜の性格も兼ね備えており、本文とあいまって多数の表、色彩豊かなイラストを採用して疾患の病態生理に関する理解を容易にしました。これらは、本大系の目的を充分に果たしていると言えます。

本大系の完結は21世紀初期の皮膚科学の集大成であり、皮膚科医にとどまらず、小児科、内科学の他の領域の診療の座右の大系として推薦いたします。

編集を終えて

現時点で最も優れた、最新情報にあふれる百科全書的教本

旭川医科大学教授

飯 塚 一



『最新皮膚科学大系』が、発刊開始わずか2年という極めて短期間に、全19巻のシリーズとして刊行された。この大系が、現時点で最も優れた、かつ文字どおり最新の情報にあふれた百科全書的教本であることは、読者にとって異論のないところであろう。各執筆者の熱気のこもった原稿を読みとおすことは、われわれ編者にとっても大変な、しかし充実した作業であった。

この大系を読み返して思うことは、皮膚科の臨床の現場では、実に膨大な知識が要求されるということである。企画にあたり編者らは可及的にすべてを網羅すべく項目を選んだが、これもある意味で現時点における暫定的な選択という但し書きがつく。項目によっては、まだ議論のある疾患概念もあり、執筆者にお願いして記載をゆずってもらった部分があった。いずれにしても『最新皮膚科学大系』の画期的な出来ばえは、このために貴重な時間を費やしてくださった各執筆者のお蔭であり、素晴らしい原稿と写真の提供にあらためて感謝したい。この大系が、皮膚科医のみならず他科の医師にとっても、日常診療の現場で皮膚疾患に苦しむ患者さんの役に立つことを祈ってやまない。

Any disorder, no matter how rare, is vitally important to the sufferer and to his medical attendants. There really are no rare and no common diseases.

-Beeson, PB-

新しい皮膚科バイブルとして

北海道大学教授

清 水 宏



ついに『最新皮膚科学大系』が完結出版されました。編集者の一人として実に感慨深いものがあります。思えば私が医学部を卒業した翌年1980年、同じ中山書店から『現代皮膚科学大系』が出版されました。皮膚科研修医時代を通じて、何かを調べるときはまず『現代皮膚科学大系』からが定石でした。それから20年がたち『現代皮膚科学大系』を皮膚科の辞書として学んだ私達が編集者となり、21世紀の新しい皮膚科教典を造るために叡智を集めました。今回もあくまで“皮膚科学大系”という名称にこだわったのはこうした理由でした。この四半世紀、皮膚科サイエンスは従来の記載皮膚科学から分子皮膚科学へと長足の進歩を遂げました。新しい分子皮膚科学を正確にわかりやすく解説してもらえよう、第一線で活躍している専門家に執筆をお願いし、記載皮膚科学の原点である「百聞は一見にしかず」を大切にすするため、各疾患ごとに豊富なカラー図を掲載しました。私ども編集者全員が知恵を絞り、さらに大系という名称にこだわった『最新皮膚科学大系』が日々の臨床、研究、教育すべての場で、新しい皮膚科バイブルとして愛読されることを心から期待しています。

1冊に全てが網羅されている使い勝手の良い書

名古屋大学教授

富 田 靖



『最新皮膚科学大系』の完結にあたり、出版に尽力されたすべての方々とともに、この刊行事業の大成功を喜びたいと思います。原稿が集まってから刊行までの速さ、写真や図の美しさ、あか抜けた装幀と読みやすい本文の組み方など、出版前の予想をはるかに超える素晴らしい大系です。

大系の内容も期待以上の充実したものとなりました。『現代皮膚科学大系』が刊行された20年前と比べて、日本の皮膚科医の数は3倍に増加し、どの分野、どの疾患についても世界のトップに並んで専門的に研究している方が揃う程、優秀な皮膚科医の層が厚くなりました。それらの方々が執筆者として専門の蘊蓄をかためて執筆していただいております。読み物としても十分楽しめる内容です。

また、一つの疾患群が一冊にすべて収められており、ある疾患を調べ、さらにその鑑別疾患を調べ進める場合もすべて一冊ですみます。これは前大系と大きく異なる便利な点、使い勝手の良い点です。『最新皮膚科学大系』は前大系以上に日常に利用され、皮膚科の日常診療に欠かせない書になると、編者の一人として自信をもってお勧めいたします。

ビジュアルかつプラクティカル、サイエンスとクリニックの橋渡し

京都大学教授

宮地 良樹



新しい世代により企画編集された『最新皮膚科学大系』が、早くも完結した。IT革命の恩恵を受けて、執筆、編集、印刷作業が格段の進歩を遂げたことが背景に挙げられるが、もう一つ大きく貢献したのは編集委員のチームワークであるという自負がある。ある時は学会終了後のホテルで帰りの飛行機の出発時間を気にしながら、またあるときは都内で深更に及ぶ議論を重ねながらの編集作業が走馬燈のように脳裡に浮かぶ。ビジュアルかつプラクティカルでありながら、サイエンスとクリニックを橋渡ししようという当初の壮大な編集計画が、編集委員の熱い思い入れによりここに結実した。万感の思いがある。わが国皮膚科学の定番の教書として、若き学徒から練達な臨床医まで、思いを一つに集うことができるツールとなろう。使いこなすほどに、新たな皮膚科学の息吹を肌で感じることができる。そんな大系として役立てば、編集者としてこれに勝る喜びはない。

皮膚科の指針となるべき教本

愛媛大学教授

橋本 公二



『最新皮膚科学大系』全19巻が完結の運びとなった。各巻の発行の段階から、その装幀の美しさは特別なものであったが、全19巻の並んだ姿は皮膚科を代表する教本にふさわしい偉容であり、編集に携わった一員として、まことに同慶の至りである。玉置教授を編集委員長として、編集が開始されてのは2000年のことであった。大きな変革期を迎えている皮膚科の指針となるべき教本を目指すとの意気込みで、その後幾度となく繰り返された編集会議がついに昨日のように思い出される。

さて、その内容であるが、皮膚科の基本である記載皮膚科学を重視しつつ、臨床面からも研究面からも最新の研究成果を積極的に取り入れ、わかりやすく解説するとの目的は見事に達成されたと思われる。経験の深い先生方にも、また、これから皮膚科を学ぼうとする先生方にも、役立つものと信じている。『最新皮膚科学大系』が多くの先生方に愛され、わが国における皮膚科学の発展に貢献することを期待する次第である。

日常診療の場で十二分に活用されることを祈念する

九州大学教授

古江 増隆



『最新皮膚科学大系』全19巻の刊行の完結にあたり、その編纂に関与する機会を与えていただいたことを、皮膚科学に携わる一人として光栄に思う。本大系は文字通り皮膚科学における最新の情報を網羅しているだけでなく、臨床写真をふんだんに取り入れた、しかもとても読みやすく温かみのある大叢書である。美しい装幀をまとった本大系はすでに私どもの図書室の書架に深い威厳を与えている。総編集の玉置邦彦教授をはじめとする各編集委員ならびに分担執筆の各先生方、そして本大系にかかわったすべての人たちのご努力に改めて感謝の意を表したい。本大系が日常診療の場で十二分に活用され、その本領が存分に発揮されんことを切に祈念して私の推薦の辞としたい。

最新皮膚科学大系
読者から
寄せられた声

●2段組で大変読みやすい。内容もup to dateでありくどくどせず簡明で好感が持てた。サイドノートに英名・同義語、OMIMのコード番号、好発部位を人体図で示すなど大変親切的な編集で、かつ便利。
(病院皮膚科専門医、北海道)

●「Mendelian Inheritance in Man」のアクセスNo.が収載されている。書籍とインターネットの両者から情報を得られ、長く活用できる。
(大学皮膚科勤務医、兵庫)

●小児科で出会う皮膚疾患は数多くあります。日常診療で困難な例に出会った時まずはこのエンサイクロペディアで調べます。皮膚科を専門としていないので大変重宝しています。
(小児科開業医、熊本)

●装いも新しくなった『最新皮膚科学大系』は一見して誌面構成がかわり、しかもフルカラーで、この時代にふさわしい。インターネット全盛期でも、貴重な症例写真を随所に配した、こういうエディティングの行き届いた手作りの書物を座右に置いておけるのは頼もしい限りだ。
(内科医院開業、東京)

●高価である。しかし、その価格に十分みあうだけの豊富な情報量にすっかり満足している。
(皮膚科開業医、岩手)

●とにかく症例写真が豊富で大きい。研修医の教育用に医局でセットを揃えました。
(大学皮膚科教授、東京)

●「全身疾患と皮膚病変」を購入。私は産婦人科医師ですが、患者さんは皮膚病変についても診察時に訴えてきます。このシリーズは診断から治療までが丁寧に記述されているので専門外の私も患者にわかりやすくインフォームド・コンセントを実践できて便利な1冊です。
(産婦人科開業医、広島)

●患者さんの“見映え”に対する関心は年々高まっています。少しでもそのニーズに対応できるため美容外科医も多様な皮膚疾患に対して知識を深めていく必要があると感じます。このシリーズはそんな私の願いを叶えてくれる充実した内容を備えています。
(美容外科医、大阪)

●皮膚科学の定本だと思う。特に病理所見の詳述さは目をみはる。図表が多用され本書を揃えておけばまず問題はない。
(病院皮膚科勤務医、石川)

最新皮膚科学大系

Comprehensive Handbook of Clinical Dermatology

全巻の構成

- ① 皮膚科診断学
- ② 皮膚科治療学 皮膚科救急
- ③ 湿疹 痒疹 瘙癢症 紅皮症 蕁麻疹
- ④ 紅斑・滲出性紅斑 紫斑 脈管系の疾患
- ⑤ 薬疹・中毒疹
- ⑥ 水疱症 膿疱症
- ⑦ 角化異常性疾患
- ⑧ 色素異常症
- ⑨ 膠原病 非感染性肉芽腫
- ⑩ 内分泌・代謝異常症 脂肪組織疾患
形成異常症 異物沈着症
- ⑪ 母斑・母斑症 悪性黒色腫
- ⑫ 上皮性腫瘍
- ⑬ 神経系腫瘍 間葉系腫瘍
- ⑭ 細菌・真菌性疾患
- ⑮ ウイルス性疾患 性感染症
- ⑯ 動物性皮膚症 環境因子による皮膚障害
- ⑰ 付属器・口腔粘膜の疾患
- ⑱ 全身疾患と皮膚病変
- ⑲ 皮膚の発生・機能と病態
- 特別巻 ① 新生児・小児，高齢者の皮膚疾患
- 特別巻 ② 皮膚科症候群
- 特別巻 ③ 炎症性皮膚疾患の病理診断（仮題）
- 別巻 総索引・総目次

全巻の構成と執筆者

※内容に若干の変更があり得ますので、ご了承ください。

第14回配本

1 皮膚科診断学

形態学的診断学

皮膚症候学	玉置 邦彦 (東大)
皮膚の理学的検査法	今山 修平 (国立病院九州医療センター)
皮膚病理組織学	熊切 正信 (福井医大)
皮膚免疫組織化学	堀口 裕治 (大阪赤十字病院)
細胞診	山田 伸夫 (山梨大)
電子顕微鏡による検査法	神保 孝一 (札幌医大)
	杉山 貞夫 (手稲深仁会病院)
	嵯峨 賢次 (札幌医大)
	兼古 理恵 (札幌医大)
免疫電子顕微鏡による検査法	永井 美貴 (岐阜大)
超音波検査法	清原 祥夫 (静岡がんセンター)
生体共焦点レーザー顕微鏡	菊地 克子 (東北大)
ダーモスコピー	斎田 俊明 (信州大)

病原体の検出

細菌、抗酸菌の検査法	多田 譲治 (岡山市立市民病院)
真菌の検査法	滝内 石夫 (昭和大森が丘病院)
	森下 宣明 (昭和大森が丘病院)
リケッチアの検査法	橋本 喜夫 (旭川医大)
寄生虫の検査法	橋本 喜夫 (旭川医大)
スピロヘータの検査法	橋本 喜夫 (旭川医大)
ウイルスの検査法	本田まりこ (慈恵医大青戸病院)
	新村 眞人 (慈恵医大)

アレルギー・免疫学的検査法

アレルギー検査法	池澤 善郎 (横浜市大)
光線過敏試験	段野貴一郎 (滋賀医大)
免疫学的検査法	柴垣 直孝 (山梨大)
	川村 龍吉 (山梨大)
	島田 眞路 (山梨大)

一般検査値をよむ

土田 哲也
(埼玉医大)

皮膚機能検査法

薬理学検査	森田 栄伸 (鳥取医大)
発汗機能検査	横関 博雄 (東京医歯大)
毛細血管抵抗試験	菊地 克子 (東北大)
角層水分保持能検査	菊地 克子 (東北大)
経表皮水分蒸散機能検査	菊地 克子 (東北大)
表皮脂質成分検査	渡辺 力夫 (新潟大)
皮膚温検査	滝脇 弘嗣 (徳島大)
皮膚血流検査	清原 祥夫 (静岡がんセンター)
経皮吸収検査	伊藤 正俊 (東邦大)

遺伝子異常および診断

遺伝子異常とその診断法	深井 和吉 (大阪市大)
ヒト疾患遺伝子の同定	
遺伝子診断の実際	玉井 克人 (阪大)
皮膚疾患と遺伝子異常	玉井 克人 (阪大)
水疱性疾患	山本 明美 (旭川医大)
角化異常症	鈴木 民夫 (名大)
色素異常症、母斑、母斑症	富田 靖 (名大)
膠原病および類症、皮膚形成異常症	佐藤 伸一 (金沢大)
腫瘍および付属器疾患	久保 宣明 (徳島大)
	荒瀬 誠治 (徳島大)
遺伝子診断に関連する諸問題	澤村 大輔 (北大)

出生前診断

出生前診断と遺伝相談：その意義と問題点	清水 宏 (北大)
出生前診断の実際	清水 宏 (北大)

第18回配本

2 皮膚科治療学 皮膚科救急

皮膚科治療学

外用療法	乾 重樹 (阪大)
ステロイド外用薬	吉川 邦彦 (阪大)

非ステロイド外用薬	水谷 仁 (三重大)	理学療法・レーザー療法 電気凝固・焼灼術	田村 敦志 (群馬大)
古典的外用薬	日野 治子 (関東中央病院)	温熱療法	河内 繁雄 (信州大)
ビタミンD外用薬	吉川 邦彦 (阪大)	凍結療法	鈴木 正 (埼玉医大)
免疫抑制外用薬	大槻マミ太郎 (自治医大)	光線療法(PUVA, UVBなど)	堀尾 武 (関西医大)
抗菌外用薬	西嶋 彌子 (関西医大香里病院)	イオントフォレーシス	小澤 明 (東海大)
抗真菌外用薬	五十棲 健 (東京警察病院)	美容理学療法	松永佳世子 (藤田保健大)
抗ウイルス外用薬	浅田 秀夫 (奈良医大)	レーザー療法	鷲見 康子 (藤田保健大)
抗腫瘍外用薬	野呂佐知子 (国立がんセンター中央病院)	皮膚外科	渡辺 晋一 (帝京大)
皮膚潰瘍外用薬	山崎 直也 (国立がんセンター中央病院)	皮膚外科の技術	大原 國章 (虎の門病院)
創傷被覆材	河合 修三 (関西医大)	静脈硬化療法	松本 佳子 (愛媛大)
サンスクリーン	河合 修三 (関西医大)	その他の治療法 血漿交換療法	八幡 陽子 (愛媛大)
保湿外用剤・スキンケア製品	船坂 陽子 (神戸大)	培養皮膚	白方 裕司 (愛媛大)
全身療法	早川 律子 (名大)	遺伝子治療	山崎 研志 (愛媛大)
ステロイド薬	江藤 隆史 (東京通信病院)	皮膚科救急	
抗ヒスタミン・アレルギー薬	森田 栄伸 (島根医大)	熱傷	
抗菌薬	秋山 尚範 (岡山大)	総論	岩崎 泰政 (岩崎皮膚科・形成外科)
抗抗酸菌薬	山崎 修 (岡山大)	熱傷の病態	岩崎 泰政 (岩崎皮膚科・形成外科)
抗真菌薬	大野 貴司 (岡山大)	化学物質による熱傷	岩崎 泰政 (岩崎皮膚科・形成外科)
抗ウイルス薬	岩月 啓氏 (岡山大)	熱傷の全身療法	岩崎 泰政 (岩崎皮膚科・形成外科)
抗腫瘍薬	石井 則久 (国立感染症研究所/ハンセン病研究センター)	スキンバンクと熱傷治療	橋本 公二 (愛媛大)
抗腫瘍化学療法	仲 弥 (伸皮フ科クリニック)	培養皮膚による熱傷治療	白方 裕司 (愛媛大)
治療の実際	川島 眞 (東女医大)	熱傷の局所療法	中岡 啓喜 (愛媛大)
免疫抑制薬	河内 繁雄 (信州大)	アナフィラキシーショック	出光 俊郎 (自治医大大宮医療センター)
サイトカイン・BRM	宇原 久 (信州大)	壊死性筋膜炎と類似疾患 壊死性筋膜炎	荒川 謙三 (岡山大)
レチノイド	佐山 浩二 (愛媛大)	vibrio vulnificus感染症	古城八寿子 (熊本中央病院)
漢方薬	室田 浩之 (長崎大)	Stevens-Johnson症候群およびTEN	水谷 仁 (三重大)
その他(DDS, ヨードカリなど)	片山 一朗 (長崎大)	毒蛇咬傷	上里 博 (琉球大)
	高橋 英俊 (旭川医大)		
	檜垣 修一 (富山医大)		
	諸橋 正昭 (富山医大)		
	堀尾 武 (関西医大)		

第1回記本

3 湿疹 痒疹 痒痒症 紅皮症 蕁麻疹

湿疹・皮膚炎

湿疹・皮膚炎総論

玉置 邦彦
(東大)

CONTENTS

刺激性(接触)皮膚炎

西岡 清
(東京医歯大)

アレルギー性接触皮膚炎

西岡 清
(東京医歯大)

光アレルギー性接触皮膚炎

戸倉 新樹
(浜松医大)

貨幣状湿疹

鳥居 秀嗣
(東 大)

感染性湿疹様皮膚炎

鳥居 秀嗣
(東 大)

自家感作性皮膚炎

鳥居 秀嗣
(東 大)

アトピー性皮膚炎

概念, 病因, 増悪因子

上原 正巳
(滋賀医大)

臨床症状, 病理検査

古江 増隆
(九 大)

治療

宮地 良樹
(京 大)

脂漏性皮膚炎

中村晃一郎
(福島医大)

皮脂欠乏性皮膚炎

宮地 良樹
(京 大)

白色乾癬疹

常深祐一郎
(東 大)

手の湿疹, 足の湿疹

中村晃一郎
(福島医大)

単純性苔癬

伊藤 正俊
(東邦大)

うっ滞性皮膚炎

伊藤 正俊
(東邦大)

湿疹を伴う症候群

中村晃一郎
(福島医大)

痒疹

痒疹の定義と分類

中村晃一郎
(福島医大)

急性痒疹

中村晃一郎
(福島医大)

亜急性痒疹

中村晃一郎
(福島医大)

慢性痒疹

中村晃一郎
(福島医大)

結節性痒疹

中村晃一郎
(福島医大)

色素性痒疹

寺木 祐一
(杏林大)

黒色痒疹

寺木 祐一
(杏林大)

妊娠性痒疹

寺木 祐一
(杏林大)

PUPPP

寺木 祐一
(杏林大)

デルマドロームとしての痒疹

寺木 祐一
(杏林大)

癩痒症

かゆみの機序

高森 建二
(順天堂浦安病院)

かゆみと疾患

高森 建二
(順天堂浦安病院)

皮膚癩痒症

江畑 俊哉
(慈恵医大)

紅皮症

紅皮症とは

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

湿疹による紅皮症

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

乾癬による紅皮症

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

薬剤による紅皮症

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

腫瘍による紅皮症

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

水疱症による紅皮症

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

扁平苔癬による紅皮症

井階 幸一
(京 大)

毛孔性紅色乾癬疹による紅皮症

井階 幸一
(京 大)

感染症による紅皮症

井階 幸一
(京 大)

遺伝性疾患による紅皮症(魚鱗癬様紅皮症)

井階 幸一
(京 大)

丘疹-紅皮症(太藤)

段野貴一郎
(滋賀医大)

蕁麻疹・アナフィラキシー

膨疹とその形成機序

亀好 良一
(福島生協病院)

秀 道広
(広島大)

急性・慢性蕁麻疹とその原因

高路 修
(県立広島病院)

接触蕁麻疹

高路 修
(県立広島病院)

自己免疫性蕁麻疹

秀 道広
(広島大)

物理性蕁麻疹

皮膚描記症

森田 栄伸
(島根医大)

寒冷蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

温熱蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

水性蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

コリン性蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

遅発性圧蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

振動蕁麻疹

森田 栄伸
(島根医大)

日光蕁麻疹

堀尾 武
(関西医大)

食物(食餌)依存性運動誘発蕁麻疹

三家 薫
(関西医大)

ラテックスアレルギー

松永佳世子
(藤田保健大)

口腔アレルギー症候群

加藤 雪彦
(東京医大)

血管性浮腫

山田 伸夫
(山梨大)

蕁麻疹を伴う症候群

玉置 邦彦
(東 大)

色素性蕁麻疹

朝比奈昭彦
(東 大)

蕁麻疹様血管炎

朝比奈昭彦
(東 大)

angioedema with eosinophilia

佐藤 貴浩
(東京医歯大)

4 紅斑・滲出性紅斑 紫斑 脈管系の疾患

紅斑・滲出性紅斑

多形滲出性紅斑	古江 増隆 (九大)
結節性紅斑	山崎 雙次 (獨協医大)
Bazin硬結性紅斑	藤本 典宏 (防衛医大)
持久性隆起性紅斑	石橋 明 (石寿会石山病院)
Sweet病	勝岡 憲生 (北里大)
Behçet病	金子 史男 (福島医大)
環状紅斑	金子 史男 (福島医大)
点状紅斑(樋口)	宮川 幸子 (奈良医大)
手掌紅斑	田中 勝 (慶大)
symmetrical lividities of the soles of the feet	田中 勝 (慶大)

紫斑

血小板異常・凝固因子異常による紫斑	窪田 泰夫 (香川医大)
血管性紫斑	塚本 克彦 (山梨県立中央病院)
毛細血管炎または原因不明による紫斑	村上 義之 (タカナシクリニック)

脈管系の疾患

壊死性血管炎	斉藤 隆三 (東邦大横病院)
肉芽腫性血管炎	陳 科崇 (荻窪病院)
閉塞性血管炎	幸野 健 (市立吹田市民病院)
その他の血管炎	谷口 彰治 (大阪鉄道病院)
	新見やよい (日本医大)
	川名 誠司 (日本医大)
リンパ管の疾患	大熊 守也 (近畿大堺病院)
血行障害	
閉塞性動脈硬化症	伊崎 誠一 (埼玉医大総合医療センター)
うっ滞性症候群	伊崎 誠一 (埼玉医大総合医療センター)
静脈瘤	伊崎 誠一 (埼玉医大総合医療センター)
びまん性真性静脈拡張症	伊崎 誠一 (埼玉医大総合医療センター)
女子下腿うっ血性紅斑	伊崎 誠一 (埼玉医大総合医療センター)
下腿潰瘍	今山 修平 (国立病院九州医療センター)
コレステロール結晶塞栓症	今山 修平 (国立病院九州医療センター)

肢端紫藍症

今山 修平
(国立病院九州医療センター)

皮膚紅痛症

今山 修平
(国立病院九州医療センター)

網状皮斑

今山 修平
(国立病院九州医療センター)

Reil死指

原 典昭
(獨協医大)

Raynaud症候群

原 典昭
(獨協医大)

抗リン脂質抗体症候群

原 典昭
(獨協医大)

壊疽

辻田 淳
(社会保険稲葉病院)

5 薬疹・中毒疹

薬疹・中毒疹の概念

塩原 哲夫
(杏林大)

薬物の発症機序

塩原 哲夫
(杏林大)

薬疹の統計

福田 英三
(福田皮膚科クリニック)

薬疹の臨床型分類

重症型薬疹

Stevens-Johnson症候群

飯島 正文
(昭和医大)

中毒表皮壊死剥離型薬疹(TEN)

飯島 正文
(昭和医大)

drug-induced hypersensitivity syndrome

藤山 幹子
(愛媛大)

発症機序に特徴のある薬疹

固定薬疹

水川 良子
(杏林大)

光線過敏型薬疹

塩原 哲夫
(杏林大)

見逃されやすい薬疹

acute generalized exanthematous pustulosis (AGEP)

狩野 葉子
(杏林大)

間擦疹型

小鍛治知子
(杏林大)

界面活性剤による薬疹

塩原 哲夫
(杏林大)

その他の薬疹

播種状紅斑丘疹型(中毒疹型)

久米 昭廣
(くめ皮膚科クリニック)

多形紅斑型

佐山 浩二
(愛媛大)

扁平苔癬型

小玉 肇
(高知医大)

蕁麻疹型

秀 道広
(広島大)

湿疹型

村上 信司
(愛媛大)

紅皮症型

神田奈緒子
(帝京大)

CONTENTS

紫斑型	狩野 葉子 (杏林大)	鈴木 啓之 (日 大)
結節性紅斑型	高木 肇 (岐阜大)	川田 暁 (近畿大)
膿疱型	狩野 葉子 (杏林大)	相原 道子 (横浜市大)
瘡瘍型	岸本 三郎 (京府医大)	古賀 哲也 (九 大)
毛包炎型	水川 良子 (杏林大)	佐山 浩二 (愛媛大)
エリテマトーデス型	衛藤 光 (聖路加国際病院)	古賀 哲也 (九 大)
乾癬型	武藤 正彦 (山口大)	
	一宮 誠 (山口大)	
色素沈着型	岡田奈津子 (大阪厚生年金病院)	
水疱症型	水谷 仁 (三重大)	
天疱瘡様薬疹	高木 肇 (岐阜大)	
接触蕁麻疹型	今山 修平 (国立病院九州医療センター)	

薬剤による副作用

シグナル伝達阻害薬, サイトカインによる皮膚障害	片山 一朗 (長崎大)
	前田 亜紀 (長崎大)
	竹中 基 (長崎大)
薬剤による毛嚢, 爪障害	高安 進 (大分県病院)
薬剤による潰瘍形成	山田 朋子 (自治医大)
	大槻マミ太郎 (自治医大)
アスピリン不耐症	原田 晋 (三田市民病院)
健康食品による副作用	狩野 葉子 (杏林大)
副腎ステロイド外用薬による副作用	大井 綱郎 (東京医大)
複合投与代謝阻害による薬剤の副作用	玉置 昭治 (淀川キリスト教病院)
その他	上中 智香子 (りんくう総合医療センター)
	古川 福実 (和歌山医大)

作用別に見た薬剤と薬疹

造影剤による薬疹	横関 博雄 (東京医歯大)
抗腫瘍薬による薬疹	井上 雄二 (熊本大)
	小野 友道 (熊本大)
漢方薬による薬疹	花井 博 (日 大)
	鈴木 啓之 (日 大)
抗リウマチ薬による薬疹	遠藤 雪恵 (群馬大)
	石川 治 (群馬大)
抗生物質による薬疹	原 弘文 (日 大)

キノロン系抗菌薬による薬疹

抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬による薬疹

抗炎症薬による薬疹

循環器疾患治療薬による薬疹

中枢神経疾患治療薬

薬疹のときに見られる多臓器障害

肝障害, 腎障害, 造血器障害

薬剤誘発性膠原病

薬剤の代謝

薬疹の診断

薬疹の治療

佐藤 伸一
(金沢大)

菊池かな子
(東 大)

川久保 洋
(埼玉医大総合医療センター)

池澤 善郎
(横浜市大)

池澤 善郎
(横浜市大)

池澤 善郎
(横浜市大)

第3回記本

6 水疱症 膿疱症

総論

水疱症, 膿疱症の定義, 分類

橋本 公二
(愛媛大)

天疱瘡と類縁疾患

天疱瘡の病態生理

天谷 雅行
(慶 大)

天疱瘡の診断

天谷 雅行
(慶 大)

天疱瘡の統計

佐久間正寛
(国立精神・神経センター国府台病院)

尋常性天疱瘡

高森 建二
(順天堂浦安病院)

増殖性天疱瘡

橋本 公二
(愛媛大)

落葉状天疱瘡

橋本 公二
(愛媛大)

紅斑性天疱瘡

橋本 公二
(愛媛大)

疱疹状天疱瘡

天谷 雅行
(慶 大)

腫瘍随伴性天疱瘡

天谷 雅行
(慶 大)

薬剤誘発性天疱瘡

藤本 亘
(川崎医大)

新生児天疱瘡

天谷 雅行
(慶 大)

表皮細胞間IgA皮膚症

西川 武二
(慶 大)

天疱瘡の治療

橋本 公二
(愛媛大)

類天疱瘡と類縁疾患

類天疱瘡の発症機序

橋本 隆
(久留米大)

7 角化異常性疾患

角化機構概論

ケラチン

高橋 健造
(群馬大)

フィラグリン

手塚 正
(近畿大)

周辺帯

山本 明美
(旭川医大)

セラミド

芋川 玄爾
(花王生物科学研)

炎症と角化

小宮根真弓
(東大)

アポトーシスと角化

荒金 兆典
(近畿大)高橋 昌江
(近畿大)手塚 正
(近畿大)

遺伝性角化症

魚鱗癬

尋常性魚鱗癬

須賀 康
(順天堂大)小川 秀興
(順天堂大)

伴性遺伝性魚鱗癬

吉池 高志
(順天堂伊豆長岡病院)

水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症

秋山 真志
(北大)

非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症

山西 清文
(京府医大)

道化師様魚鱗癬

秋山 真志
(北大)

症候群に伴う魚鱗癬

米田 耕造
(秋田大)

掌蹼角化症

三橋善比古
(山形大)

毛嚢性角化症

真鍋 求
(秋田大)

Darier病

池田 志孝
(順天堂大)

汗孔角化症

大塚 藤男
(筑波大)

紅斑角皮症

山本 明美
(旭川医大)

炎症性角化症

乾癬

遺伝,疫学

武藤 正彦
(山口大)

病態生理

飯塚 一
(旭川医大)

臨床症状

飯塚 一
(旭川医大)

膿疱性乾癬

小林 仁
(小林皮膚科クリニック)

患者組織

小林 仁
(小林皮膚科クリニック)

治療

梅澤 慶紀
(東海大)小澤 明
(東海大)

類乾癬

喜多野征夫
(兵庫医大)

類天疱瘡の診断

橋本 隆
(久留米大)

水疱性類天疱瘡

橋本 隆
(久留米大)

瘢痕性類天疱瘡

橋本 隆
(久留米大)

妊娠性疱疹

田中 俊宏
(天理よろづ相談所病院)

若年性類天疱瘡

大河内仁志
(国際医療センター研)

Duhring瘡疹状皮膚炎・線状IgA水疱症

Duhring瘡疹状皮膚炎

藤本 亘
(川崎医大)

線状IgA水疱症

堀口 裕治
(大阪赤十字病院)

後天性表皮水疱症と類縁疾患

後天性表皮水疱症

田中 俊宏
(天理よろづ相談所病院)

水疱性全身性エリテマトーデス

土田 哲也
(埼玉医大)

先天性表皮水疱症

先天性表皮水疱症の分類と病態

澤村 大輔
(北大)

先天性表皮水疱症の診断

玉井 克人
(弘前大)

単純型表皮水疱症

北島 康雄
(岐阜大)

接合部型表皮水疱症

清水 宏
(北大)

栄養障害型表皮水疱症

玉井 克人
(弘前大)

先天性表皮水疱症の治療

白方 裕司
(愛媛大)徳丸 昌
(愛媛大)橋本 公二
(愛媛大)

その他の水疱症

家族性良性慢性天疱瘡

池田 志孝
(順天堂大)

一時的棘融解性皮膚症

三橋善比古
(山形大)

skin fragility syndrome

山本 明美
(旭川医大)

膿疱症

膿疱症の定義と分類

照井 正
(東北大)

掌蹼膿疱症

照井 正
(東北大)

急性汎発性膿疱性細菌疹(Tan)

照井 正
(東北大)

膿疱性乾癬

照井 正
(東北大)

角層下膿疱症

佐野 栄紀
(阪大)

好酸球性膿疱性毛包炎

宮地 良樹
(京大)

疱疹状膿疱疹

佐野 栄紀
(阪大)

稽留性肢端皮膚炎

戸田 憲一
(北野病院)

小児肢端膿疱症

戸田 憲一
(北野病院)

壊疽性膿皮症

戸田 憲一
(北野病院)

CONTENTS

扁平苔癬
病態生理

臨床

扁平苔癬様角化症

毛孔性紅色皰糠疹

光沢苔癬, 線状苔癬

Gibertばら色皰糠疹

飯塚 一
(旭川医大)

林 伸和
(東女医大)

喜多野征夫
(兵庫医大)

中山樹一郎
(福岡大)

赤坂 俊英
(岩手医大)

高橋 英俊
(旭川医大)

acromelanosis progressiva

色素失調症

黒子症

色素分界線条

Spitzenpigment

榊原 章浩
(名 大)

小玉 和郎
(北 大)

河内 繁雄
(信州大)

加藤 直子
(国立札幌病院)

榊原 章浩
(名 大)

その他の角化症

黒色表皮腫

須賀 康
(順天堂大)

高森 建二
(順天堂浦安病院)

鱗状毛包性角化症

須賀 康
(順天堂大)

高森 建二
(順天堂浦安病院)

連環状皰糠疹

須賀 康
(順天堂大)

高森 建二
(順天堂浦安病院)

融合性細網状乳頭腫症

市来 善郎
(岐阜大)

更年期角化症

市来 善郎
(岐阜大)

後天性魚鱗癬

市来 善郎
(岐阜大)

固定性扁豆状角化症

米田 和史
(岐阜市民病院)

後天性色素増加症

老人性色素斑

松永 純
(東北大)

武内 出穂
(東北大)

田上 八朗
(東北大)

松永佳世子
(藤田保健大)

早川 律子
(名 大)

杉浦真理子
(名 大)

肝斑

Riehl黒皮症

加藤 泰三
(東北厚生年金病院)

加藤 泰三
(東北厚生年金病院)

labial melanotic macule

penile melanosis, vulvovaginal melanosis

顔面毛嚢性紅斑黒皮症(北村)

古村 南夫
(福岡大)

紫外線による色素沈着

小林 信彦
(奈良医大)

炎症後の色素沈着症と類似疾患

豊福 一朋
(九 大)

化学・薬剤性色素沈着

古村 南夫
(福岡大)

異物沈着による色素異常症

花田 勝美
(弘前大)

第7回配本

8 色素異常症

総論

メラニンと色素異常症

富田 靖
(名 大)

鈴木 民夫
(名 大)

先天性色素増加症

表皮の母斑細胞増殖

松永 純
(東北大)

武内 出穂
(東北大)

田上 八朗
(東北大)

真皮の母斑細胞増殖

松永 純
(東北大)

武内 出穂
(東北大)

田上 八朗
(東北大)

雀卵斑

河野 通浩
(名 大)

遺伝性対側性色素異常症

河野 通浩
(名 大)

網状肢端色素沈着症

金本 雄介
(金本皮膚科)

先天性色素脱失症

眼皮膚白皮症

眼皮膚白皮症1型(チロジナーゼ関連型)

富田 靖
(名 大)

神谷 篤
(名 大)

眼皮膚白皮症2型(P遺伝子関連型)

深井 和吉
(大阪市大)

眼皮膚白皮症3型(TRP1関連型)

深井 和吉
(大阪市大)

眼皮膚白皮症4型(MATP遺伝子型)

深井 和吉
(大阪市大)

Hermansky-Pudlak症候群

深井 和吉
(大阪市大)

Chédiak-Higashi症候群

深井 和吉
(大阪市大)

Griscelli症候群

深井 和吉
(大阪市大)

Cross-McKusick-Breen症候群

占部 和敬
(九 大)

フェニルケトン尿症

占部 和敬
(九 大)

まだら症

占部 和敬
(九 大)

Waardenburg症候群

占部 和敬
(九 大)

脱色素性母斑

河野 通浩
(名 大)

hypomelanosis of Ito	河野 通浩 (名 大)
後天性色素脱失症	
尋常性白斑	堀川 達弥 (神戸大)
	永井 宏 (神戸大)
Sutton白斑	永井 宏 (神戸大)
	堀川 達弥 (神戸大)
黒色腫関連白斑	永井 宏 (神戸大)
	堀川 達弥 (神戸大)
Vogt-Koyanagi-Harada症候群	堀川 達弥 (神戸大)
	永井 宏 (神戸大)
炎症性辺縁隆起性白斑	堀川 達弥 (神戸大)
	永井 宏 (神戸大)
老人性白斑	塚本 克彦 (山梨県立中央病院)
炎症後白斑	塚本 克彦 (山梨県立中央病院)
化学物質による色素脱失	早川 律子 (名 大)
	杉浦真理子 (名 大)
白色粒糠疹	塚本 克彦 (山梨県立中央病院)

疾患や症候群に伴う色素異常症

代謝・酵素障害による色素沈着症 ヘモクロマトーシス	占部 和敬 (九 大)
Wilson病	占部 和敬 (九 大)
Gaucher病	占部 和敬 (九 大)
Niemann-Pick病	占部 和敬 (九 大)
晩発性皮膚ポルフィリン症	野中 薫雄 (琉球大)
	上里 博 (琉球大)
アミロイドーシス	宇谷 厚志 (千葉大)
黒色表皮腫	柳原 誠 (金沢医大)
色素性乾皮症	錦織千佳子 (神戸大)
内分泌性色素沈着症	古村 南夫 (福岡大)
全身性疾患に伴う色素沈着	出光 俊郎 (自治医大大高医療センター)
	梅本 尚可 (自治医大大高医療センター)
	加倉井真樹 (自治医大)
栄養障害性色素沈着	花田 勝美 (弘前大)
感染症に伴う色素沈着	松本 義也 (愛知医大)

症候群に伴う色素沈着
von Recklinghausen病

その他(Peutz-Jeghers症候群ほか)

感染症に伴う白斑

症候群に伴う色素脱失

太田 有史
(慈恵医大)

船坂 陽子
(神戸大)

松本 義也
(愛知医大)

中野 創
(弘前大)

花田 勝美
(弘前大)

第4回配本

9 膠原病 非感染性肉芽腫

膠原病総論

概念と病因, 病態

三森 経世
(京 大)

皮膚以外の臓器病変

近藤 啓文
(北里大)

治療薬

川合 眞一
(聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター)

膠原病と関連疾患

エリテマトーデス

全身性エリテマトーデス

古川 福実
(和歌山医大)

皮膚エリテマトーデス

土田 哲也
(埼玉医大)

特殊な病型と類縁疾患

衛藤 光
(聖路加国際病院)

強皮症

全身性強皮症

竹原 和彦
(金沢大)

限局性強皮症

関 姿恵
(群馬大)

特殊な病型と類縁疾患

石川 治
(群馬大)

皮膚筋炎

藤本 学
(国際医療センター研)

Sjögren症候群

室 慶直
(名 大)

混合性結合組織病

白田 俊和
(社会保険中央病院)

全身性血管炎

佐々木哲雄
(国際医療福祉大学付属熱海病院)

Raynaud現象

川名 誠司
(日本医大)

抗リン脂質抗体症候群

菊池かな子
(東 大)

片山 一朗
(長崎大)

浜崎洋一郎
(長崎大)

有馬 優子
(長崎大)

岡田 茂
(長崎大)

佐藤 伸一
(金沢大)

水谷 仁
(三重大)

水谷 仁
(三重大)

CONTENTS

ヒトアジュバント病

移植片対宿主病

オーバーラップ症候群

慢性関節リウマチ

成人Still病

Behçet病

Sweet病

壊疽性膿皮症

好酸球性蜂窩織炎

再発性多発性軟骨炎

佐藤 伸一
(金沢大)

佐藤 伸一
(金沢大)

佐々木哲雄
(国際医療福祉大学付属熱海病院)

檜垣 祐子
(東女医大)

檜垣 祐子
(東女医大)

溝口 昌子
(聖マリアンナ医大)

溝口 昌子
(聖マリアンナ医大)

小宮根真弓
(東大)

佐藤 貴浩
(東京医歯大)

藤本 典宏
(防衛医大)

多島 新吾
(防衛医大)

Bazin硬結性紅斑

Weber-Christian病

histiocytic cytophagic panniculitis

ステロイド後脂肪組織炎

皮下脂肪肉芽腫症

深在性エリテマトーデス

外傷性脂肪組織炎

寒冷脂肪組織炎

注射後脂肪組織炎

脂肪萎縮

その他の脂肪組織疾患

窪田 泰夫
(香川医大)

窪田 泰夫
(香川医大)

窪田 泰夫
(香川医大)

川嶋 利瑞
(北大)

川嶋 利瑞
(北大)

川嶋 利瑞
(北大)

川嶋 利瑞
(北大)

川嶋 利瑞
(北大)

川嶋 利瑞
(北大)

村田 哲
(自治医大)

池田 光徳
(高知医大)

非感染性肉芽腫

サルコイドーシス

環状肉芽腫

その他の肉芽腫性疾患

岡本 祐之
(関西医大)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

第16回配本

10 内分泌・代謝異常症 脂肪組織疾患 形成異常症 異物沈着症

内分泌・代謝異常症

真皮結合組織代謝異常
線維成分異常

基質成分異常

蛋白・アミノ酸代謝異常

脂質代謝異常

糖代謝異常

ボルフィリン代謝異常, ビタミン異常症

尿酸代謝異常

無機物質代謝異常
皮膚石灰沈着症

垂鉛欠乏症

ヘモクロマトーシス, その他

小林 孝志
(千葉大)

藤原 作平
(大分医大)

柳原 誠
(金沢医大)

池田 光徳
(高知医大)

神崎 保
(鹿児島大)

野中 薫雄
(琉球大)

三砂 範幸
(佐賀医大)

花田 勝美
(弘前大)

花田 勝美
(弘前大)

中野 創
(弘前大)

花田 勝美
(弘前大)

窪田 泰夫
(香川医大)

形成異常症

皮膚萎縮症

斑状皮膚萎縮症

Pasini-Pierini型進行性特発性皮膚萎縮症

線状皮膚萎縮症

老人性皮膚萎縮症

日光弾性線維症(項部菱形皮膚)

stellate spontaneous pseudoscars

white fibrous papulosis of the neck

陰茎萎縮症

陰門萎縮症

進行性顔面片側萎縮症

虫蝕状皮膚萎縮症

口囲放射状癬痕

多型皮膚萎縮症

硬化性萎縮性苔癬

辻 卓夫
(名古屋市大)

辻 卓夫
(名古屋市大)

辻 卓夫
(名古屋市大)

辻 卓夫
(名古屋市大)

辻 卓夫
(名古屋市大)

辻 卓夫
(名古屋市大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

石川 治
(群馬大)

田村 敦志
(群馬大)

脂肪組織疾患

脂肪組織炎

結節性紅斑

窪田 泰夫
(香川医大)

遺伝性結合組織疾患	石川 治 (群馬大)	アポクリン母斑	三原 基之 (鳥取大)
早老症候群 プロジェリア	新海 流 (千葉大)		葉狩 良孝 (鳥取大)
	曾我部陽子 (群馬大)	副乳	三原 基之 (鳥取大)
アクロゲリア	石川 治 (群馬大)		葉狩 良孝 (鳥取大)
	曾我部陽子 (群馬大)	神経堤起源細胞系母斑 色素性母斑	三原 基之 (鳥取大)
Werner症候群	石川 治 (群馬大)		木村 鉄宣 (札幌皮膚病理解研究所)
	曾我部陽子 (群馬大)	後天性色素性母斑	木村 鉄宣 (札幌皮膚病理解研究所)
Rothmund-Thomson症候群	石川 治 (群馬大)	分離母斑	青木見佳子 (日本医大)
Bloom症候群	大塚 藤男 (筑波大)	部分脂肪腫性母斑	青木見佳子 (日本医大)
Hutchinson-Gilford 症候群	大塚 藤男 (筑波大)	点状集簇性母斑	青木見佳子 (日本医大)
Wiedemann-Rautenstrauch症候群	大塚 藤男 (筑波大)	気球細胞母斑	青木見佳子 (日本医大)
Cockayne症候群	大塚 藤男 (筑波大)	Sutton母斑	青木見佳子 (日本医大)
形成異常症	藤本 学 (国際医療センター研)	先天性巨大色素性母斑	青木見佳子 (日本医大)
	佐藤 伸一 (金沢大)	扁平母斑	原 弘之 (日大板橋病院)
穿孔性皮膚症	近藤 慈夫 (山形大)	Becker母斑	森嶋 隆文 (日大板橋病院)

異物沈着症

色素の沈着	木下 祐介 (日大板橋病院)
刺青	手塚 正 (近畿大)
異物肉芽腫	山元 修 (九州厚生年金病院)

第5回配本

11 母斑・母斑症 悪性黒色腫

母斑・母斑症

母斑・母斑症総論	清水 宏 (北大)
	有田 賢 (北大)

母斑

上皮系母斑 表皮母斑	谷川 瑛子 (慶大)
面皰母斑	谷川 瑛子 (慶大)
毛包母斑	谷川 瑛子 (慶大)
脂腺母斑	葉狩 良孝 (鳥取大)
	三原 基之 (鳥取大)
エクリン母斑	葉狩 良孝 (鳥取大)

母斑症

神経線維腫症(NF1,NF2)	新村 貢人 (慈恵医大)
結節性硬化症	金田 眞理 (阪大)
Zinsser-Cole-Engman症候群	籠浦 正順 (富山医大)
	諸橋 正昭 (富山医大)
色素失調症	藤山 幹子 (愛媛大)
汎発性黒子症	石河 晃 (慶大)

青色母斑	村上富美子 (聖マリアンナ医科大学横浜西部病院)
太田母斑	村上富美子 (聖マリアンナ医科大学横浜西部病院)
後天性真皮メラノサイトーシス	村上富美子 (聖マリアンナ医科大学横浜西部病院)
蒙古斑	村上富美子 (聖マリアンナ医科大学横浜西部病院)
伊藤母斑	村上富美子 (聖マリアンナ医科大学横浜西部病院)
間葉細胞系母斑	影下登志郎 (熊本大)
脈管系母斑および腫瘍	旭 正一 (福岡通信病院)

CONTENTS

神経皮膚黒色症

Peutz-Jeghers症候群

Sturge-Weber症候群

Klippel-Trenaunay 症候群

von Hippel-Lindau症候群

青色ゴム乳首様母斑症候群

Osler病

Maffucci症候群

ataxia-telangiectasia

先天性血管拡張性大理石様皮斑

色素血管母斑症

基底細胞母斑症候群

表皮母斑症候群

悪性黒色腫

疫学, 病因, 分類と症状, 病理, 病期と予後

関連疾患

治療

神保 孝一
(札幌医大)

狩野 葉子
(杏林大)

清原 祥夫
(静岡がんセンター)

松村 和子
(北大)

横田 浩一
(北大)

芝木 晃彦
(北大)

阿部理一郎
(北大)

紫芝 敬子
(日赤医療センター)

倉持 朗
(埼玉医大)

倉持 朗
(埼玉医大)

秋山 真志
(北大)

加藤 直子
(国立札幌病院)

川口とし子
(横浜南共済病院)

斎田 俊明
(信州大)

斎田 俊明
(信州大)

山本 明史
(がんセンター中央病院)

白板症

oral florid papillomatosis

類癌性皮膚乳頭腫症

偽癌性増殖

有棘細胞癌

基底細胞癌

谷口 芳記
(市立四日市病院)

安江 敬
(名大)

木村 鉄宣
(札幌皮膚病理研究所)

木村 鉄宣
(札幌皮膚病理研究所)

斎田 俊明
(信州大)

小野 友道
(熊本大)

萱島 研一
(熊本大)

若杉 正司
(熊本大)

毛包系腫瘍

総論

毛包上皮の過形成および過誤腫

毛包上皮の良性・悪性腫瘍

毛包腫

毛包棘細胞腫

線維毛包腫と毛盤腫

毛包上皮腫

線維硬化性毛包上皮腫

毛包腺腫

毛母腫

毛母癌

増殖性外毛根鞘性嚢腫

悪性増殖性外毛根鞘性嚢腫

外毛根鞘腫

外毛根鞘癌

tumor of follicular infundibulum

毛芽腫

清金 公裕
(大阪医大)

木花 光
(済生会横浜市南部病院)

赤坂 俊英
(岩手医大)

赤坂 俊英
(岩手医大)

赤坂 俊英
(岩手医大)

赤坂 俊英
(岩手医大)

赤坂 俊英
(岩手医大)

佐藤 俊樹
(さとう皮膚科クリニック)

佐藤 俊樹
(さとう皮膚科クリニック)

佐藤 俊樹
(さとう皮膚科クリニック)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

落合 豊子
(日大駿河台病院)

脂腺系腫瘍

脂腺母斑

脂腺増殖症

脂腺腺腫

脂腺腫(脂腺上皮腫)

脂腺癌

滝脇 弘嗣
(徳島大)

滝脇 弘嗣
(徳島大)

滝脇 弘嗣
(徳島大)

滝脇 弘嗣
(徳島大)

滝脇 弘嗣
(徳島大)

汗腺系腫瘍

総論

清原 隆宏
(福井医大)

熊切 正信
(福井医大)

12 上皮性腫瘍

表皮系腫瘍

脂漏性角化症

澄明細胞性棘細胞腫

疣贅状異常角化腫

ケラトアカントーマ

日光角化症

砒素角化症, 砒素癌

放射線角化症, 放射線癌

機械油角化症, コールタール角化症, タール癌

Bowen病

紅色肥厚症(Queyrat)

三橋善比古
(山形大)

玉田 康彦
(愛知医大)

玉田 康彦
(愛知医大)

宇原 久
(信州大)

近藤 靖児
(近藤皮膚科クリニック)

黒川 基樹
(宮崎医大)

瀬戸山 充
(宮崎医大)

黒川 基樹
(宮崎医大)

瀬戸山 充
(宮崎医大)

榊原 章浩
(名大)

安齋 眞一
(秋田大)

中山樹一郎
(福岡大)

第8回記本

エクリン汗腺系の増殖と良性腫瘍

清原 隆宏
(福井医大)

エクリン汗腺の悪性腫瘍

熊切 正信
(福井医大)

アポクリン汗腺の増殖と良性腫瘍

清原 隆宏
(福井医大)

アポクリン汗腺の悪性腫瘍

熊切 正信
(福井医大)

桐生 美磨
(北九州市立医療センター)

川端 康浩
(川崎皮膚科クリニック)

ウイルス性腫瘍

尋常性疣贅, 青年性扁平疣贅

石地 尚興
(慈恵医大)

尖圭コンジローム

石地 尚興
(慈恵医大)

疣贅状表皮発育異常症

安立あゆみ
(名大)

Bowen様丘疹症

安立あゆみ
(名大)

Buschke-Löwenstein腫瘍

安立あゆみ
(名大)

疣状有棘細胞癌

安立あゆみ
(名大)

嚢腫

成澤 寛
(佐賀医大)

転移性皮膚癌およびその他の転移性疾患

転移性皮膚癌

安藤 徹夫
(帝京大溝口病院)

その他の転移性疾患

安藤 徹夫
(帝京大溝口病院)

第6回配本

13 神経系腫瘍 間葉系腫瘍

神経系腫瘍

神経線維腫

太田 有史
(慈恵医大)

神経鞘腫

太田 有史
(慈恵医大)

悪性末梢神経鞘腫瘍

太田 有史
(慈恵医大)

nerve sheath様形態を示す腫瘍

高田 実
(富山県立中央病院)

神経腫

高田 実
(富山県立中央病院)

Merkel細胞癌

鈴木 啓之
(日大)

未分化神経外胚葉性腫瘍

萱島 研一
(熊本大)

小野 友道
(熊本大)

草壁 秀成
(大阪医大)

皮膚原発骨外性Ewing肉腫

板倉 英潤
(九大)

皮膚髄膜腫

草壁 秀成
(大阪医大)

間葉系腫瘍

線維組織

軟性線維腫

中川 浩一
(大阪市大)

皮膚線維腫

石井 正光
(大阪市大)

中川 浩一
(大阪市大)

石井 正光
(大阪市大)

菊池かな子
(東大)

ケロイド, 肥厚性瘢痕

線維腫, 線維腫症

板倉 英潤
(九大)

深部の線維腫, 深部の線維腫症

清金 公裕
(大阪医大)

乳児線維性過誤腫

武藤 正彦
(山口大)

若年性ヒアリン線維腫症

横山 恵美
(山口大)

武藤 正彦
(山口大)

横山 恵美
(山口大)

皮膚粘液腫

武藤 正彦
(山口大)

横山 恵美
(山口大)

粘液嚢腫, 偽嚢腫

武藤 正彦
(山口大)

横山 恵美
(山口大)

異型線維黄色腫

板倉 英潤
(九大)

隆起性皮膚線維肉腫

板倉 英潤
(九大)

悪性線維性組織球腫

板倉 英潤
(九大)

類上皮肉腫

板倉 英潤
(九大)

滑膜肉腫

板倉 英潤
(九大)

脂肪組織

脂肪腫

田村 敦志
(群馬大)

脂肪芽細胞腫

田村 敦志
(群馬大)

冬眠腫

田村 敦志
(群馬大)

脂肪肉腫

田村 敦志
(群馬大)

筋組織

平滑筋母斑

石原 政彦
(鳥取大)

平滑筋腫, 平滑筋肉腫

石原 政彦
(鳥取大)

横紋筋腫, 横紋筋肉腫

石原 政彦
(鳥取大)

骨組織

皮膚骨腫

草壁 秀成
(大阪医大)

爪下外骨腫

草壁 秀成
(大阪医大)

皮膚軟骨腫

草壁 秀成
(大阪医大)

CONTENTS

脈管系

反応性増殖	今山 修平 (国立病院九州医療センター)
形成異常	田中 勝 (慶 大)
血管系良性腫瘍	
いちご状血管腫	倉持 朗 (埼玉医大)
静脈性蔓状血管腫	倉持 朗 (埼玉医大)
皮膚動静脈奇形	倉持 朗 (埼玉医大)
hyperkeratotic capillary-venous malformation	倉持 朗 (埼玉医大)
sinusoidal hemangioma	三砂 範幸 (佐賀医大)
microvenular hemangioma	澤田 俊一 (さわだ皮膚科)
targetoid hemosiderotic hemangioma	幸田 太 (九 大)
老人性血管腫	柴田 真一 (名 大)
Maffucci症候群	山脇 光夫 (関西医大)
青色ゴム乳首様血管腫	川崎 勇夫 (福井医大)
	清原 隆宏 (福井医大)
	熊切 正信 (福井医大)
血管腫症	草壁 秀成 (大阪医大)
血管芽細胞腫(中川)	半田 芳浩 (名 大)
紡錘細胞血管内皮腫	満間 照之 (静岡済生会総合病院)
グロムス腫瘍	財満 浩之 (東京医大)
血管外皮細胞腫	宮川 史 (滋賀医大)
	段野貴一郎 (滋賀医大)
悪性血管系腫瘍	増澤 幹男 (北里大)
リンパ管系良性・悪性腫瘍	今山 修平 (国立病院九州医療センター)

組織球

黄色腫	小玉 肇 (高知医大)
疣状黄色腫	小玉 肇 (高知医大)
若年性黄色肉芽腫	小玉 肇 (高知医大)
丘疹性黄色腫	小玉 肇 (高知医大)
播種状黄色腫	小玉 肇 (高知医大)
類壊死性黄色肉芽腫	小玉 肇 (高知医大)
Rosai-Dorfman病	上出 康二 (和歌山医大)
多中心性細網組織球症	上出 康二 (和歌山医大)
progressive nodular histiocytosis	上出 康二 (和歌山医大)

hereditary progressive mucinous histiocytosis	上出 康二 (和歌山医大)
benign cephalic histiocytosis	上出 康二 (和歌山医大)
汎発性発疹性組織球腫	橋爪 秀夫 (浜松医大)
indeterminate cell histiocytosis	上出 康二 (和歌山医大)
congenital self-healing reticulohistiocytosis	上出 康二 (和歌山医大)
組織球症 X (Langerhans 細胞組織球症)	橋爪 秀夫 (浜松医大)

造血系

皮膚リンパ腫総論	瀧川 雅浩 (浜松医大)
皮膚T細胞リンパ腫	
菌状息肉症	瀧川 雅浩 (浜松医大)
Sézary症候群	宮沢めぐみ (横浜市立市民病院)
	長谷 哲男 (横浜市大)
CD4陽性皮膚T細胞リンパ腫	長谷 哲男 (横浜市大)
	岡澤ひろみ (横浜市大)
	宮沢めぐみ (横浜市立市民病院)
CD8陽性皮膚T細胞リンパ腫	戸倉 新樹 (浜松医大)
成人T細胞白血病/リンパ腫	城野 昌義 (NTT西日本九州病院)
皮膚 $\gamma\delta$ T細胞リンパ腫	八木 宏明 (浜松医大)
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫	伊藤 薫 (新潟大)
その他のT細胞リンパ腫と関連疾患	長谷 哲男 (横浜市大)
	佐藤かすみ (横浜市大)
	宮沢めぐみ (横浜市立市民病院)
皮膚B細胞リンパ腫と関連疾患	中山樹一郎 (福岡大)
	竹下 盛重 (国立病院九州医療センター)
ナチュラルキラー細胞リンパ腫	岩月 啓氏 (岡山大)
血球貪食性リンパ組織球症	岩月 啓氏 (岡山大)
未分化大細胞型リンパ腫	戸倉 新樹 (浜松医大)
皮膚白血病	北嶋 敏之 (宇治徳洲会病院)
	島田 眞路 (山梨大)
肥満細胞症(肥満細胞腫)	出光 俊郎 (自治医大大宮医療センター)
	井上 多恵 (秋田大)

14 細菌・真菌性疾患

細菌性皮膚疾患

総論

細菌の分類・検査法

西嶋 攝子
(関西医大)

皮膚細菌感染症と防御機構

秋山 尚範
(岡山大)

皮膚細菌感染症の病態

大野 貴司
(岡山大)

皮膚細菌感染症の治療

岩月 啓氏
(岡山大)森田 明理
(名古屋市大)多田 譲治
(岡山市民病院)

皮膚一般細菌感染症

浅在性細菌感染症

荒田 次郎
(中島病院)

深在性細菌感染症

檜垣 修一
(富山医大)

慢性膿皮症

西嶋 攝子
(関西医大)

毒素関連性疾患

田村 敦志
(群馬大)

全身性溶血性連鎖球菌感染症/敗血症

多田 譲治
(岡山市民病院)

特殊な皮膚感染症

日野 治子
(関東中央病院)赤松 浩彦
(藤田保健大)朝田 康夫
(朝田皮膚科クリニック)

皮膚抗酸菌感染症

皮膚結核(症)

石井 則久
(国立感染症研究所ハンセン病研究センター)佐々木 津
(国立感染症研究所ハンセン病研究センター)

非定型抗酸菌症

杉田 泰之
(杉田皮膚科クリニック)

Hansen病

和泉 真蔵
(アイルラング大学熱帯病センター)

真菌性皮膚疾患

総論

真菌の分類・検査法

西本勝太郎
(長崎市民病院)

皮膚真菌症の感染と防御機構

加藤 卓朗
(済生会川口総合病院)

真菌症の病態と真菌を抗原とするアレルギー

照井 正
(東北大)

皮膚真菌症の治療

原田 敬之
(東女医大第2病院)

皮膚糸状菌症(白癬)

浅在性白癬

望月 隆
(金沢医大)

炎症性白癬

田中 壯一
(田中皮膚科医院)

深在性白癬

古賀 哲也
(九大)

カンジダ症

渡辺 晋一
(帝京大)

マラセチア感染症

清 佳浩
(昭和大学が丘病院)

深在性皮膚真菌症

松田 哲男
(松田ひふ科医院)松本 忠彦
(東芝病院)

関連皮膚疾患

マラセチアと脂漏性皮膚炎・アトピー性皮膚炎

中川 秀己
(自治医大)

白癬疹

比留間政太郎
(順天堂大)

二次(あるいは続発)感染

立花 隆夫
(京大)

その他の皮膚感染症

リケッチア感染症

荒瀬 誠治
(徳島大)

ボレリア感染症(ライム病)

橋本 喜夫
(旭川医大)

第12回配本

15 ウイルス性疾患 性感染症

ウイルス性疾患

総論

本田まりこ
(慈恵医大)新村 眞人
(慈恵医大)

ヘルペスウイルス感染症

単純性疱疹

安元慎一郎
(久留米大)

Kaposi水痘様発疹症

浅田 秀夫
(奈良医大)

水痘

漆畑 修
(東邦大)

帯状疱疹

漆畑 修
(東邦大)

伝染性単核症

吉田 正己
(東邦大)

サイトメガロウイルス感染症

吉田 正己
(東邦大)

突発性発疹

浅田 秀夫
(奈良医大)

Kaposi肉腫

赤城久美子
(都立駒込病院)

ボックスウイルス感染症

伝染性軟属腫

安元慎一郎
(久留米大)

痘瘡, 種痘疹, 搾乳者結節

本田まりこ
(慈恵医大)新村 眞人
(慈恵医大)

パポウイルス感染症

尋常性疣贅

江川 清文
(熊本大)

青年性扁平疣贅

江川 清文
(熊本大)

尖圭コンジローム

江川 清文
(熊本大)

Bowen様丘疹症

安立あゆみ
(名大)

疣贅状表皮発育異常症

安立あゆみ
(名大)

レトロウイルス感染症

総論

渡邊 孝宏
(東大)

後天性免疫不全症候群(AIDS)

味澤 篤
(都立駒込病院)

皮膚症状

赤城久美子
(都立駒込病院)

成人T細胞白血病・リンパ腫

瀬戸山 充
(宮崎医大)

その他のウイルス感染症と急性発疹症

伝染性紅斑

五十嵐敦之
(NTT東日本関東病院)

川崎病

日野 治子
(関東中央病院)

エンテロウイルス感染症/手足口病

日野 治子
(関東中央病院)

麻疹

日野 治子
(関東中央病院)

風疹

日野 治子
(関東中央病院)

Gianotti病とGianotti症候群

日野 治子
(関東中央病院)

ウイルス感染と関連する皮膚疾患

EBウイルスと皮膚疾患

岩月 啓氏
(岡山大)

ウイルスと皮膚癌

浅田 秀夫
(奈良医大)

ウイルスとGVHD

本田まりこ
(慈恵医大)新村 眞人
(慈恵医大)

ウイルス感染と drug-induced hypersensitivity syndrome

藤山 幹子
(愛媛大)

ウイルス感染とGibertばら色粒糠疹

浅田 秀夫
(奈良医大)

性感染症(STD)

性感染症の動向、予防

新村 眞人
(慈恵医大)

梅毒

大里 和久
(大里クリニック)

梅毒血清反応

水岡 慶二
(BML総合研究所)

軟性下疳

岩田 充
(関東労災病院)

鼠径リンパ肉芽腫症

岩田 充
(関東労災病院)

淋疾

田中 正利
(九大)

非淋菌性尿道炎

田中 正利
(九大)

疥癬

繁益 弘志
(東女医大第2病院)

毛ジラミ症

谷口 芳記
(市立四日市病院)

性器ヘルペス

安元慎一郎
(久留米大)

尖圭コンジローム

江川 清文
(熊本大)

陰部軟肉腫

安元慎一郎
(久留米大)

後天性免疫不全症候群(AIDS)

赤城久美子
(都立駒込病院)16 動物性皮膚症
環境因子による皮膚障害

節足動物と皮膚疾患

節足動物 概説

篠永 哲
(東京医歯大)

力類および双翅類刺咬性昆虫による皮膚炎

夏秋 優
(兵庫医大)

蚊刺過敏症

岩月 啓氏
(岡山大)

蠅蛆病

梁取 明彦
(大田原赤十字病院)

シラミ類による皮膚炎

岡 恵子
(日通東京病院)

トコジラミ類による刺咬症

野瀬 隆夫
(スギンクリニック野瀬)

ノミ刺症

岡 恵子
(日通東京病院)

ハチ・アリ類による刺症

堀内 信之
(佐久総合病院)

有毒鱗翅類による皮膚炎

夏秋 優
(兵庫医大)

毒棘による皮膚炎

久保容二郎
(久保皮膚科医院)

毒蛾皮膚炎

夏秋 優
(兵庫医大)

甲虫類による皮膚炎

大滝 倫子
(九段坂病院)

疥癬

大滝 倫子
(九段坂病院)

動物疥癬

大滝 倫子
(九段坂病院)

ニキビダニ症

イエダニなど吸血性ダニと皮膚疾患

成田 博実
(フタバ皮膚科形成外科医院)

ツメダニ類・シラミダニ類による刺症

橋本 喜夫
(旭川医大)

マダニ刺咬症

鳥山 史
(日赤長崎原爆病院)

ツツガムシ刺症

ダニが媒介する感染症

福井 米正
(黒部市民病院)

ツツガムシ病

荒瀬 誠治
(徳島大)

日本紅斑熱

橋本 喜夫
(旭川医大)

ライム病

その他の海外由来のダニ媒介感染症

大滝 倫子
(九段坂病院)

サソリ刺咬症

中根 宏
(中根皮膚科医院)

クモ刺咬症

大利 昌久
(おおり医院)

ムカデ咬症

岡田 善胤
(岡田皮膚科クリニック)

節足動物以外の有害有毒動物による皮膚疾患

creeping disease

顎口虫症, 旋尾線虫幼虫症, Manson孤虫症

緒方 克己
(宮崎医大)

鉤虫症, 糞線虫症, イヌ糸状虫症

谷口 芳記
(市立四日市病院)

海洋生物による皮膚障害

上里 博
(琉球大)

哺乳類、爬虫類による皮膚障害

イヌ、ネコ、ネズミなどによる咬傷、掻傷と感染症	原 弘之 (日 大)
毒ヘビ咬症	上里 博 (琉球大)
毒トカゲ咬症	清水 顕 (山梨大)

その他の(有害)動物による皮膚障害

ヒル症	藤曲 正登 (千葉県衛生研究所)
リーシュマニア症	上里 博 (琉球大)
吸虫(特に住血吸虫)による皮膚障害	太田 伸生 (名古屋市大)
イヌ回虫症	夏秋 優 (兵庫医大)
トリコモナス症	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
トリパノソーマ症	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
アメーバ赤痢	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
マラリア	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
トキソプラズマ症	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
エキノコックス症	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
リンパ系系状虫症	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)
希少疾病用医薬品の入手	大友 弘士 (慈恵会熱帯医学研究部)
	小松崎 眞 (慈恵医大)

皮膚寄生虫症妄想

皮膚寄生虫症妄想	大滝 倫子 (九段坂病院)
----------	------------------

害虫対策

害虫対策	田中 生男 (日本環境衛生センター)
------	-----------------------

環境因子・光線による皮膚障害

温熱による皮膚障害	
熱傷	大西 譽光 (帝京大)
電撃傷	渡辺 晋一 (帝京大)
レーザーによる皮膚障害	渡辺 晋一 (帝京大)
温熱性紅斑	渡辺 晋一 (帝京大)
寒冷による皮膚障害	林 伸和 (東女医大)

機械的刺激による皮膚障害

褥瘡

総論

治療

光線による皮膚障害

総論

光老化

光線性皮膚障害

内因性光感作物質による光線過敏症

外因性光感作物質による光線過敏症

DNA障害による皮膚障害

日光蕁麻疹

多形日光疹

慢性光線性皮膚炎

種痘様水疱症

急性および慢性放射線皮膚障害

種々の環境・社会因子による皮膚障害

ホルムアルデヒドによる皮膚障害

シックハウス症候群

急性砒素中毒

振動による皮膚障害

薬剤の血管外漏出による皮膚障害

職業性皮膚障害

田辺恵美子

(東邦大佐倉病院)

宮地 良樹

(京 大)

石川 治

(群馬大)

上出 良一

(慈恵医大)

市橋 正光

(サンクリニック)

松尾 幸朗

(帝京大市原病院)

野中 薫雄

(琉球大)

上出 良一

(慈恵医大)

錦織千佳子

(神戸大)

堀尾 武

(関西医大)

堀尾 武

(関西医大)

上出 良一

(慈恵医大)

岩月 啓氏

(岡山大)

帆足 俊彦

(東 大)

大河内仁志

(国際医療センター)

小塚 雄民

(日野クリニック)

笹川 征雄

(笹川皮膚科)

上出 康二

(和歌山医大)

大塚 勤

(獨協医大)

柳川 茂

(埼玉県立がんセンター)

早川 律子

(名 大)

杉浦真理子

(名 大)

第9回配本

17 付属器・口腔粘膜の疾患

毛髪疾患

毛髪総論

男性型脱毛症

円形脱毛症

休止期脱毛症

板見 智

(阪 大)

乾 重樹

(阪 大)

板見 智

(阪 大)

荒瀬 誠治

(徳島大)

近藤 慈夫

(山形大)

CONTENTS

トリコチロマニア

外傷性脱毛症

癬痕性脱毛症

薬剤性脱毛症

内分泌・代謝障害による脱毛症

膠原病に伴う脱毛

感染症による脱毛症

先天性脱毛症

多毛症

毛髪形態異常

毛髪色素異常

松村 哲理
(斗南病院)

坂本ふみ子
(新潟大)

坂本ふみ子
(新潟大)

橋本 剛
(新潟大)

伊藤 雅章
(新潟大)

早川 和人
(杏林大)

片山 一朗
(長崎大)

原田 敬之
(東女医大第2病院)

成澤 寛
(佐賀医大)

片桐 一元
(大分医大)

森 理
(久留米大)

伊藤 雅章
(新潟大)

伊藤 雅章
(新潟大)

黒川 一郎
(兵庫県立塚口病院)

西嶋 堀子
(関西医大香里病院)

黒川 一郎
(兵庫県立塚口病院)

西嶋 堀子
(関西医大香里病院)

杉浦 久嗣
(滋賀医大)

杉浦 久嗣
(滋賀医大)

杉浦 久嗣
(滋賀医大)

清 佳浩
(昭和大蔵が丘病院)

清 佳浩
(昭和大蔵が丘病院)

清 佳浩
(昭和大蔵が丘病院)

毛包脂腺系の疾患

毛包脂腺系総論

尋常性瘡瘡

他の瘡瘡性疾患

酒皰

口囲皮膚炎および酒皰様皮膚炎

顔面播種状粟粒性狼瘡

脂漏

マラセチア毛包炎

Fox-Fordyce病

汗腺の疾患

汗腺総論

多汗症

無汗症、乏汗症(減汗症)

嵯峨 賢次
(札幌医大)

嵯峨 賢次
(札幌医大)

松田 聡子
(神戸大)

足立 厚子
(兵庫県立加古川病院)

堀川 達弥
(神戸大)

横関 博雄
(東京医歯大)

嵯峨 賢次
(札幌医大)

横関 博雄
(東京医歯大)

東 禹彦
(東皮フ科医院)

爪の疾患

口腔粘膜疾患

舌の疾患

アフタ性疾患

口唇炎

日光口唇炎

カンジダ性口唇炎

肉芽腫性口唇炎

腺性口唇炎

形質細胞性口唇炎

接触性口唇炎

剥脱性口唇炎

口唇ヘルペス

口舐め病

口角炎

口腔粘膜の扁平苔癬

口腔粘膜の水疱性病変

口腔粘膜の色素異常

口腔粘膜の腫瘍

その他の口腔粘膜疾患

勝岡 憲生
(北里大)

川上 民裕
(聖マリアンナ医大)

満口 昌子
(聖マリアンナ医大)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

伊崎 誠一
(埼玉医大総合医療センター)

原田 敬之
(東女医大第2病院)

原田 敬之
(東女医大第2病院)

原田 敬之
(東女医大第2病院)

寺尾 浩
(国府南福岡病院)

山本 純照
(奈良医大)

宮川 幸子
(奈良医大)

天笠 光雄
(東京医歯大)

天笠 光雄
(東京医歯大)

清水 忠道
(北大)

松田 曙美
(札幌鉄道病院)

第13回配本

18 全身疾患と皮膚病変

全身疾患と皮膚病変

内臓悪性腫瘍と皮膚病変

内臓悪性腫瘍のデルマドロームとしての皮膚病変 上田 正登
(神戸大)

内臓悪性腫瘍を検索すべき皮膚疾患 森 理
(久留米大)

妊娠、婦人科疾患と皮膚病変 松田 真弓
(岩手医大)

糖尿病、代謝疾患と皮膚病変 末木 博彦
(昭和大)

内分泌疾患と皮膚病変 金蔵 拓郎
(鹿児島大)

消化管疾患と皮膚病変 狩野 葉子
(杏林大)

肝・脾疾患と皮膚病変 早川 和人
(杏林大)

腎疾患、透析と皮膚病変

循環器疾患と皮膚病変

呼吸器疾患と皮膚病変

血液疾患と皮膚病変

神経疾患と皮膚病変

眼科疾患と皮膚病変

耳鼻咽喉科疾患と皮膚病変

整形外科疾患と皮膚病変

歯科・口腔外科疾患と皮膚病変

精神疾患、心身症と皮膚病変

服部 瑛
(はっとり皮膚科医院)

安齋 真一
(秋田大)

眞鍋 求
(秋田大)

横関 博雄
(東京医歯大)

城野 昌義
(NTT西日本九州病院)

今門 純久
(日赤医療センター)

松本 義也
(愛知医大)

出来尾 哲
(島根医大)

松吉 徳久
(京大)

加藤 則人
(京府医大)

立花 隆夫
(京大)

ポイキロデルマ(多形皮膚萎縮)

全身性のかゆみ

有痛性皮膚疹

皮膚知覚異常

発疹を伴う発熱

膠原病を疑うきっかけとなる皮膚

佐藤 貴浩
(東京医歯大)

宮地 良樹
(京大)

堀尾 武
(関西医大)

石井 則久
(国立感染症研究所ハンセン病研究センター)

佐々木 津
(国立感染症研究所ハンセン病研究センター)

永井 弥生
(利根中央病院)

土田 哲也
(埼玉医大)

皮膚症状からみた全身疾患

顔面の紅斑・潮紅

結節を触れる紅斑

紫斑

膨疹

浮腫、粘液水腫

全身の色素沈着

白斑

口腔粘膜病変

爪の変化

脱毛、多毛

多汗、無汗(乏汗)

麻疹様発疹

リンパ節腫大

網状皮斑

潰瘍、壊死

皮膚硬化

石黒 直子
(東女医大)

山口 全一
(日大横濱光が丘病院)

斉藤 隆三
(東邦大大橋病院)

山田 秀和
(近畿大奈良病院)

久保田由美子
(福岡大)

鈴木 民夫
(名大)

富田 靖
(名大)

久志本常人
(聖マリアンナ医大)

溝口 昌子
(聖マリアンナ医大)

勝岡 憲生
(北里大)

豊田 雅彦
(富山医大)

諸橋 正昭
(富山医大)

橋本 剛
(新潟大)

安齋 真一
(秋田大)

眞鍋 求
(秋田大)

松山 孝
(東海大)

濱本 嘉昭
(山口大)

武藤 正彦
(山口大)

山崎 雙次
(愛媛医大)

石川 治
(群馬大)

竹原 和彦
(金沢大)

19 皮膚の発生・機能と病態

皮膚の発生と病態

皮膚の発生

皮膚のモザイシズム

皮膚のBlaschko線

秋山 真志
(北大)

三橋善比古
(山形大)

相馬 良直
(聖マリアンナ医大)

皮膚の機能と病態 表皮

角層の機能と病態

角化の機序と病態への関与

ケラチノサイトの増殖因子とその病態への関与

ケラチノサイトが産生するサイトカイン・ケモカインとその受容体

ケラチノサイトの幹細胞とその病態への関与(治療への応用)

大河内仁志
(国際医療センター)

デスモソームの機能と病態

表皮細胞のアポトーシスとネクローシス

メラノサイトのメラニン産生制御機構と病態

富田 靖
(名大)

鈴木 民夫
(名大)

稲垣 克彦
(名大)

溝口 昌子
(聖マリアンナ医大)

西村 栄美
(ハーバード大ダナファーマー癌研)

船坂 陽子
(神戸大)

ランゲルハンス細胞の抗原提示と遊走と病態への関与

朝比奈昭彦
(東大)

メルケル細胞の機能と病態への関与

成澤 寛
(佐賀医大)

CONTENTS

基底膜

基底膜の機能と病態への関与	有田 賢 (北大)
	清水 宏 (北大)

真皮・皮下組織

線維芽細胞の多様性とその病態への関与	阿部理一郎 (北大)
膠原線維の産生制御機構と病態への関与	尹 浩信 (東大)
弾性線維の産生制御機構と病態への関与	多島 新吾 (防衛医大)
細胞外基質の産生制御機構と病態への関与	宇谷 厚志 (千葉大)
真皮樹状細胞の機能と病態への関与	相場 節也 (東北大)
肥満細胞の機能と病態への関与	神戸 直智 (京大)
マクロファージの機能と病態への関与	内藤 眞 (新潟大)
血管内皮細胞の機能と病態への関与	窪田 泰夫 (香川医大)
リンパ管内細胞の機能と病態への関与	渡辺 孝宏 (東大)
皮膚の神経線維の分布とその機能	豊田 雅彦 (富山医科薬科大)
脂肪細胞の機能と病態への関与	戸田 修二 (佐賀医大)
	杉原 甫 (佐賀医大)

皮膚付属器

毛周期と幹細胞, その病態への関与	板見 智 (阪大)
脂腺の機能と病態への関与	渡辺 力夫 (新潟大)
	伊藤 雅章 (新潟大)
エクリン汗腺, アポクリン汗腺の機能と病態への関与	嵯峨 賢次 (札幌医大)

特別巻

第20回記本

1 新生児・小児, 高齢者の皮膚疾患

新生児の皮膚疾患

新生児, 小児の皮膚の特徴	佐々木りか子 (国立成育医療センター)
新生児の発疹	
紅斑	新聞 寛徳 (奈良医大)
	宮川 幸子 (奈良医大)
膿疱	滝崎 弘嗣 (徳島大)
水疱	石河 晃 (慶大)
角化異常, 紅皮症	佐野 栄紀 (阪大)
脱毛	坂本ふみ子 (新潟大)
爪の異常	東 禹彦 (東皮フ科病院)
色素斑, 脱色素斑	塚本 克彦 (山梨県立中央病院)

血管腫	田村 敦志 (群馬大)
形成異常	
口蓋裂その他	内藤 浩 (京大)
neonatal adnexal polyp	橋本 吾夫 (旭川医大)
皮膚, 皮下の硬結	大森 一範 (慈恵医大柏病院)
感染症	
ウイルス性疾患	本田まり子 (慈恵医大青戸病院)
細菌性疾患	秋月 尚範 (岡山大)
先天梅毒	占部 和敬 (九大)
原発性免疫不全症候群	川村 信明 (北大)
医原性皮膚障害	松田 真弓 (岩手医大)

乳児・小児の皮膚疾患

乳児期の湿疹病変	横関 博雄 (東京医歯大)
乳児期の股部の病変	神田奈緒子 (帝京大)
acrodermatitis enteropathica	落合 豊子 (駿河台日大病院)
小児のアトピー性皮膚炎(トピックス)	
健診	佐伯 秀久 (東大)
小児の皮膚感染症	
細菌性	石井 則久 (国立感染症研究所ハンセン病研究センター)
真菌感染症	滝内 石夫 (昭和と大森が丘病院)
ウイルス感染症	江川 清文 (熊本大)
ウイルス性発疹症	浅田 秀夫 (奈良医大)
小児の膠原病	石川 治 (群馬大)
小児の乾癬	川田 暁 (近畿大)
小児に特徴的な良性腫瘍	木村 俊次 (共済立川病院)
小児に特徴的な悪性腫瘍	板倉 英潤 (九大)
Langerhans cell histiocytosis, congenital self-healing reticulohistiocytosis	清原 隆宏 (福井医大)
小児の爪の色素線条	大原 國章 (虎の門病院)
trichotillomania, 自傷性皮膚炎	飯塚 一 (旭川医大)
被虐待児症候群 battered child syndrome	恒成 茂行 (熊本大)
学校保健	町野 博 (町野皮膚科)
BCG後の皮膚反応	占部 和敬 (九大)
紫外線防御	市橋 正光 (サンクリニック)
食物アレルギー	池澤 善郎 (横浜市大)

新生児, 小児の薬剤使用上の一般的注意

外用薬	宮崎 勝巳 (北大病院)
-----	-----------------

内服薬	菅原 満 (北大病院)	Angelman syndrome	榊原 代幸 (知多厚生病院)
	宮崎 勝巳 (北大病院)	antiphospholipid antibody syndrome	西村 香織 (長崎大)
授乳婦、妊婦における薬剤投与	佐藤 孝道 (聖路加国際病院)		片山 一朗 (長崎大)
高齢者の皮膚疾患		Apert syndrome	松本 和也 (徳島大)
高齢者の皮膚の特性	種井 良二 (東京都老人医療センター)		荒瀬 誠治 (徳島大)
老徴、光老化、皮膚発癌	堀尾 武 (関西医大)	acquired immunodeficiency syndrome (AIDS)	赤城久美子 (都立駒込病院)
皮膚掻痒症	高森 建二 (順天堂浦安病院)	Ascher syndrome	藤井 勝善 (愛知医大)
高齢者の腫瘍性疾患	萱島 研一 (熊本大)		青山 久 (愛知医大)
紅皮症	藤山 幹子 (愛媛大)	ataxia telangiectasia	原 弘之 (日 大)
水疱	高木 肇 (岐阜大)	auriculotemporal syndrome	清澤 智晴 (防衛医大)
光線過敏症	段野貴一郎 (滋賀医大)	autoerythrocyte sensitization syndrome	五味 博子 (帝京大)
抗腫瘍薬にともなう皮膚症状	瀬戸山 充 (宮崎医大)		松尾 幸朗 (帝京大)
栄養障害 acquired Zn deficiency	花田 勝美 (弘前大)	bagabond syndrome	矢野正一郎 (東 大)
寝たきり老人によくみられる皮膚疾患	林 伸和 (東女医大)	Bannayan-Zonana syndrome	安江 敬 (名 大)
ストーマ、失禁	穴澤 貞夫 (慈恵医大第三病院)		富田 靖 (名 大)
静脈瘤症候群、静脈血栓症硬化療法	松本 佳子 (愛媛大)	bare lymphocyte syndrome	中村晃一郎 (福岡医大)
疥癬	石井 則久 (国立感染症研究所ハンセン病研究センター)	Basal cell nevus syndrome	佐山 浩二 (愛媛大)
高齢者の手術における一般的注意事項	神谷 秀喜 (岐阜大)	battered child syndrome	岩崎 慈子 (慈恵医大)
高齢者の薬剤使用上の一般的注意			上出 良一 (慈恵医大)
外用薬	伊藤 正俊 (東邦大)	Bazex syndrome	原 正啓 (泉中央皮膚科クリニック)
内服薬	沖 洋充 (北大病院)	Bazex syndrome (follicular)	井上 雄二 (熊本大)
	宮崎 勝巳 (北大病院)		小野 友道 (熊本大)
薬剤相互作用	川合 真次 (北大病院)	Bazin disease	高橋 英俊 (旭川医大)
	宮崎 勝巳 (北大病院)	Beckwith-Wiedemann syndrome	旗持 淳 (千葉大)
特別巻		Behçet syndrome	金子 史男 (福岡医大)
2 皮膚科症候群		Birt-Hogg-Dube syndrome	石河 晃 (慶 大)
Aarskog syndrome	塚原 正人 (山口大)	Bloch-Sulzberger syndrome (Department of Dermatology University of GRAZ)	小玉 和郎
acrodermatitis continua of Hallopeau	高橋 和宏 (岩手医大)	Bloom syndrome	高木 肇 (岐阜大)
acropigmentatio symmetrica of Dohi	大山 学 (慶 大)	blue rubber bleb nevus syndrome	清原 隆宏 (福井医大)
	石河 晃 (慶 大)	bronze baby syndrome	伊藤 進 (香川医大)
Addison disease	小松 威彦 (防衛医大)	Brooke-Spiegler syndrome	三砂 範幸 (佐賀医大)
Alezzandrini syndrome	安西 三郎 (大分医大)	Brunsting-Perry syndrome	村田 洋三 (兵庫県立成人病センター)
		Burger disease	菊池かな子 (東 大)

CONTENTS

Buschke-Ollendorff syndrome	石崎 純子 (東女医大第二病院)		坪井 博仁 (宮崎医大)
carcinoid syndrome	出光 俊郎 (自治医大大宮医療センター)	Fanconi aplastic anemia	坂下 一夫 (信州大)
Castleman disease	森次 龍太 (弘前大)		小宮山 淳 (信州大)
	花田 勝美 (弘前大)	Farber syndrome	石井 正光 (阪市大)
Chédiak-Higashi syndrome	高橋 一夫 (横浜市大)	Favre-Racouchot syndrome	石川 治 (群馬大)
	池澤 善郎 (横浜市大)	first branchial syndrome	井川 浩晴 (北大)
CHILD syndrome	戸倉 新樹 (産業医大)	Flegel disease	赤坂 俊英 (岩手医大)
chronic granulomatous disease	神保 孝一 (札幌医大)	focal dermal hypoplasia syndrome	木村 俊次 (共済立川病院)
Churg-Strauss syndrome	小林 里実 (東女医大)	Fournier gangrene	定本 靖司 (愛媛県立中央病院)
Cobb syndrome	岡本 祐之 (関西医大)	Franceschetti-Jadassohn syndrome	藤原 作平 (大分医大)
Cockayne syndrome	橋本 洋子 (関西医大)	Gardner syndrome	成澤 寛 (佐賀医大)
Conradi's syndrome	石川 治 (群馬大)	Gianotti-Crosti syndrome	二神 綾子 (日医大病院)
Cronkhite-Canada syndrome	日野 治子 (関東中央病院)	Gloves and socks syndrome	井上有紀子 (愛媛大)
Cushing syndrome	田中 厚 (亀田総合病院)	Glucagonoma syndrome	桐生 美磨 (北九州市立医療センター)
cutis laxa	旗持 淳 (愛媛医大)	Goldenhar syndrome	吉川 邦彦 (阪大)
Darier disease	池田 志孝 (順天堂大)	Gonococcal dermatitis syndrome	加藤 卓朗 (済生会川口総合病院)
De Sanctis-Cacchione syndrome	佐藤 健二 (近畿中央病院)	Gottron syndrome(acrogeria)	玉置 邦彦 (東大)
Degos disease	師井 洋一 (九大)	Gougerot-Blum disease	青木見佳子 (日医大)
Dowling-Degos disease	菊池 一郎 (愛ライフ皮膚科)		川名 誠司 (日医大)
Down syndrome	相馬 良直 (聖マリアンナ医大)	Gougerot-Carteaud syndrome	清水 聡子 (市立札幌病院)
	橋爪 鈴男 (聖マリアンナ医大)	Hailey-Hailey disease	横田 浩一 (北大)
	満口 昌子 (聖マリアンナ医大)	HAIR-AN syndrome	阿部由紀子 (北大)
Drug-induced hypersensitivity syndrome	藤山 幹子 (愛媛大)	Hartnup disease	山崎 雙次 (獨協医大)
Dubowitz syndrome	加藤 泰三 (東北厚生年金病院)	Heerfordt syndrome	大井 綱郎 (東京医大)
dyskeratosis congenita (Cole-Engman syndrome)	大竹 直樹 (海岸通り皮膚科)	Henoch-Schönlein purpura	新見やよい (日医大)
dysplastic nevus syndrome	岸本 三郎 (京府医大)	herediatry angioedema	猪又 直子 (横浜市大)
ectodermal dysplasia(hidrotic)	中村 健一 (おゆみの皮膚科医院)		池澤 善郎 (横浜市大)
ectodermal dysplasia(hypohidrotic)	清原 隆宏 (福井医大)	Hermansky-Pudlak syndrome	鈴木 民夫 (名大)
Ehlers-Danlos syndrome	山崎 研志 (愛媛大)		富田 靖 (名大)
eosinophilia-myalgia syndrome	水谷 仁 (三重大)	Hunter syndrome	石川 治 (群馬大)
Epidermodysplasia verruciformis	安立あゆみ (名大)	hypereosinophilic syndrome	森田 明理 (名古屋市大)
Fabry disease	松村 和子 (北大)	hyperimmunoglobulin E syndrome	山崎 修 (岡山大)
familial Mediterranean fever	村井 幸一 (宮崎医大)	hypomelanosis of Ito	岸本 三郎 (京府医大)

Jadassohn-Pellizzari anetoderma	黒木 茂 (東北大)	Miescher granulomatosis	大塚 勤 (獨協医大)
Kabuki syndrome	橋本 喜夫 (旭川医大)	Mondor disease	岡田 知善 (日大板橋病院)
Kallmann syndrome	岡野 昌樹 (愛染橋病院)	Monilethrix syndrome	村松 重典 (順天堂大)
Kanzaki disease	神崎 保 (鹿児島大)	Mucha-Habermann syndrome	水野 寛 (県立広島病院)
Kasabach-Merritt syndrome	大塚 藤男 (筑波大)	Muckle-Wells syndrome	秀 道広 (県立広島病院)
Kawasaki disease	日野 治子 (関東中央病院)	Muir-Torre syndrome	玉置 邦彦 (東 大)
KID syndrome(Keratitis, Ichthyosis, Deafness syndrome)	富高 晶子 (藤田保健大)	multiple endocrine neoplasia(MEN)	安齋 眞一 (秋田大)
Kimura disease	衛藤 光 (聖路加国際病院)	Munchausen syndrome	清水 道生 (埼玉医大)
Kindler syndrome	安川 香奈 (北 大)	Nail-Patella syndrome	島田 祥子 (鹿児島大)
Kitamura reticulate acropigmentation	岸本 三郎 (京府医大)		原田 研 (弘前大)
Klippel-Trenaunay-Weber syndrome	柴田 智子 (九 大)	Netherton syndrome	花田 勝美 (弘前大)
Kyrle disease	古江 増隆 (九 大)	neurocutaneous melanosis	安齋 眞一 (秋田大)
Laugier-Hunziker syndrome	野村 和夫 (青森県立中央病院)		佐々木裕子 (国立霞ヶ浦病院)
LEOPARD syndrome	柴山 久代 (昭和病院)	nevus of Ito, nevus of Ota	谷川 瑛子 (国立霞ヶ浦病院)
Lesch-Nyhan syndrome	藤原 浩 (新潟大)	nevus Sebaceus of Jadassohn	渡辺 晋一 (帝京大)
Leser-Trélat Sign	山野 恒一 (阪市大)		葉狩 良孝 (鳥取大)
	西村 香織 (長崎大)	Niemann-Pick disease	三原 基之 (鳥取大)
	片山 一郎 (長崎大)		高橋 勉 (秋田大)
linear nevus sebaceus syndrome	馬場 直子 (神奈川県子ども医療センター)	Noonan syndrome	高田 五郎 (秋田大)
lipoid proteinosis	長坂 武 (慶 大)		竹中 基 (長崎大)
	田中 勝 (慶 大)	Ofuji syndrome	片山 一郎 (長崎大)
loose anagen hair syndrome	濱田 学 (九 大)	Omenn syndrome	宮地 良樹 (京 大)
Lyme disease	橋本 喜夫 (旭川医大)	Osler-Weber-Rendu syndrome	森 淳夫 (めぐろクリニック)
Madura Foot	川村 真樹 (東北大)	pachydermoperiostosis	酒井ふき子 (国立霞ヶ浦病院)
	相場 節也 (東北大)	pachyonychia congenita (type I-IV)	白濱 茂穂 (聖路三方原病院)
Maffucci syndrome	山脇 光夫 (関西医大)	Papillon-Lefèvre syndrome	山本 明美 (旭川医大)
	堀尾 武 (関西医大)	Papular-purpuric gloves-and-socks syndrome(PPGSS)	野村 和夫 (青森県立中央病院)
Majocchi granuloma	秋葉 均 (福島医大)		東 奈津子 (阪市大)
Marfan syndrome	土田 哲也 (埼玉医大)		深井 和吉 (阪市大)
Marjolin ulcer	井上 雄二 (熊本大)	Parinaud oculoglandular syndrome	石井 正光 (阪市大)
Mendes DaCosta syndrome	山本 明美 (旭川医大)		井上 雄二 (熊本大)
Menkes syndrome	大田 孝幸 (慶 大)		小野 友道 (熊本大)

CONTENTS

Parry-Romberg syndrome	市山 高志 (山口大)	Rubinstein-Taybi syndrome	阿部 陽子 (阿部皮膚科医院)
Pasini and Pierini atrophoderma	清原 隆宏 (福井医大)		片山 一朗 (阿部皮膚科医院)
Pasini syndrome	水嶋 淳一 (東女医大)	Rud syndrome	高原 正和 (新日鐵八幡記念病院)
peeling skin syndrome	松本 和彦 (信州大)		古江 増隆 (九 大)
Peutz-Jeghers syndrome	後藤多佳子 (九州中央病院)	Russell-Silver syndrome	米田 和史 (岐阜市民病院)
Peyronie disease	坂井 博之 (旭川医大)	Sanfilippo syndrome	木下 悟 (国立精神・神経センター武蔵病院)
	飯塚 一 (旭川厚生病院)		富沢 修一 (国立精神・神経センター武蔵病院)
pili torti syndromes	豊田 雅彦 (富山医薬大)	Schnitzler syndrome	調 裕次 (NTT西日本大阪病院)
	丸山 友裕 (富山医薬大)	Sézary syndrome	岸本 恵美 (東京逓信病院)
	諸橋 正昭 (富山医薬大)	Siemens syndrome	秋山 真志 (北 大)
POEMS syndrome	山口 隆広 (福岡大)	sister Mary Joseph nodule	玉置 邦彦 (東 大)
	中山樹一郎 (福岡大)	Sjögren syndrome	臼田 俊和 (社会保険中央病院)
Poland anomaly	中原 剛士 (九 大)	Sjögren-Larsson syndrome	斉藤 隆三 (東邦大大橋病院)
polycystic ovary syndrome	伊藤明子 (新潟大)	skin fragility syndrome	三橋善比古 (山形大)
	伊藤 雅章 (新潟大)	Sneddon syndrome	西村 陽一 (京 大)
Potter syndrome	別宮 史朗 (徳島赤十字病院)	Sneddon-Wilkinson syndrome	北島 康雄 (岐阜大)
Prader-Willi syndrome	沼原 紀予 (ぬまはら皮ふ科)	Sotos syndrome	末石 研二 (東京歯大)
	沼原 利彦 (ぬまはら皮ふ科)	Stewart-Treves syndrome	占部 和敬 (九 大)
	窪田 泰夫 (ぬまはら皮ふ科)	Still disease	石川 治 (群馬大)
progeria (Hutchinson-Gilford syndrome)	山崎 雙次 (獨協医大)	Sturge-Weber syndrome	川上 民裕 (聖マリアンナ医大)
Proteus syndrome	中根 宏 (旭川医大)	Sweet syndrome	中村 恭子 (国立成育医療センター)
pseudoxanthoma Elasticum	黒田 啓 (防衛医大)	Takayasu disease	谷川 瑛子 (慶 大)
	多島 新吾 (防衛医大)	Tietz syndrome	塚元 和弘 (長崎大)
Ramsay Hunt syndrome	漆畑 修 (東邦大)		河野 茂 (長崎大)
Reiter syndrome	井隨 幸一 (くらしき作楽大)	toxic shock syndrome	多田 譲治 (岡山市立市民病院)
reticular erythematous nuchinosis	原田 玲子 (東京電力病院)	toxic shock-like syndrome	多田 譲治 (岡山市立市民病院)
Richner-Hanhart syndrome	堀 仁子 (旭川医大)	tricho-rhino-phalangeal syndrome	紫芝 敬子 (日本赤十字病院)
Rosai-Dorfman disease	金子 健彦 (同慶記念病院)	trichothiodystrophy	長田 雅子 (東京医大)
Rothmann-Makai syndrome	大森謙太郎 (川崎医大)	trigeminal trophic syndrome	浅越 健治 (岡山大)
Rothmund-Thomson syndrome (Rothmund disease)	喜多野征夫 (兵庫医大)	trisomy 18 syndrome	馬場 直子 (神奈川県立こども医療センター)
Rowell syndrome	山科 幸夫 (奈良医大)	Turner syndrome	丸山 美鈴 (愛媛大)
	宮川 幸子 (奈良医大)	Vogt-Koyanagi-Harada syndrome	伊藤 正俊 (東邦大)
		Vohwinkel syndrome	山本 明美 (旭川医大)

Von Hippel-Lindau syndrome

Waardenburg syndrome

Waldenström macroglobulinemia

Weber-Christian disease

Wegener granulomatosis

Wells syndrome

Werner syndrome

Whipple disease

Wilson disease

Wiskott-Aldrich syndrome

Wissler-Fanconi syndrome

Woringer-Kolopp disease

yellow nail syndrome

塚本 克彦
(山梨県立中央病院)

満口 昌子
(聖マリアンナ医科大学)

加藤 直子
(国立札幌病院)

岡本 祐之
(関西医科大学)

神保 孝一
(札幌医科大学)

豊田 雅彦
(富山医産大)

清水 忠道
(北大)

藤山 佳秀
(滋賀医科大学)

辻川 知之
(滋賀医科大学)

五十棲 健
(東京警察病院)

山元 修
(九州厚生年金病院)

新井 達
(北里大)

安齋 真一
(秋田大)

岡本 祐之
(関西医科大学)

三橋善比古
(山形大)

桐生 美磨
(北九州市立医療センター)

三砂 範幸
(佐賀医科大学)

竹内 紋子
(慈恵医科大学)

大畑 千佳
(阪大)

玉田 康彦
(愛知医科大学)

高間 弘道
(愛知医科大学)

山本 明美
(旭川医科大学)

福本 隆也
(県立奈良病院)

澤村 大輔
(北大)

原田 研
(弘前大)

今 淳
(弘前大)

倉園 普生
(札幌皮膚病理所)

玉田 伸二
(徳島皮膚科クリニック)

特別巻

第22回配本

3 炎症性皮膚疾患の病理診断(仮題)

はじめに

木村 鉄宣
(札幌皮膚病理所)

総論

皮膚病理診断の手順

木村 鉄宣
(札幌皮膚病理所)

皮膚と皮下脂肪組織の正常組織

曾和 順子
(大阪市大)

皮膚病理診断に必要な医学用語

木村 鉄宣
(札幌皮膚病理所)

村澤 章子
(札幌皮膚病理所)

表皮に変化のない皮膚炎

血管周囲性炎症細胞浸潤

安齋 真一
(秋田大)

結節性・びまん性炎症性細胞浸潤

表皮に変化のある皮膚炎

海綿状浮腫

表皮内水疱・膿胞

乾癬様表皮肥厚

真皮表皮境界型

空胞変性

苔癬型

表皮下水疱

膠原線維の増生

毛包炎・毛包周囲炎

細菌性

真菌

ウイルス性

その他

皮膚血管病変

血管炎

血管炎を伴わない血管病変

皮下脂肪組織炎

脂肪隔壁性

脂肪小葉性

脱毛症

田中 勝
(慶大)

石河 晃
(慶大)

陳科 榮
(荻窪病院)

本多 芳英
(東京医大)

金子 健彦
(同愛記念病院)

乾癬による紅皮症

英 erythroderma associated with psoriasis

同 乾癬続発性紅皮症、乾癬性紅皮症 (psoriatic erythroderma)、紅皮症性乾癬 (erythrodermic psoriasis)

定義、概念

乾癬が増悪、汎発化して、紅皮症の定義（全身もしくは身体の大部に紅斑、潮紅を生じ、種々の程度の落屑を伴った状態）に合致するようになったものをいう。これには2型あるとされる¹⁾。一つは、慢性の乾癬病巣が徐々に拡大して全身に広がるもので、皮疹には乾癬の特徴が残し、部分的に健康皮膚を残し、治療に対する反応がよく予後良好なタイプである。もう一つは、比較的急激に発症し、乾癬の特徴は失われてすべての皮膚が侵され、しばしば発熱を伴って全身状態が悪化し、治療に対する反応も悪く再発しやすいタイプである。しかし実際には、必ずしもこの2型に明確に区別されるものではない。

汎発性膿疱性乾癬で紅皮症を呈することがあり²⁾、また乾癬性紅皮症で膿疱をみることもあるので、この両者は一部重なる概念である³⁾。

疫学

紅皮症全体のなかで乾癬による紅皮症の占める割合は、諸家により表1⁴⁾のように報告されている。報告により若干ばらつきがあるものの、外国においては紅皮症全体の2~3割、日本では1~2割を占めているものと考えられる。

一方、乾癬患者全体のなかで紅皮症性乾癬の占める割合は、Boydら³⁾のアメリカでの統計で50/2,223 (2.25%)、佐藤ら¹⁴⁾の5/389 (1.29

%)、大坪ら¹⁵⁾の4/211 (1.90%)などの報告があり、ほぼ2%前後と考えられる。男女比と平均発症年齢は、アメリカで34:16 (男性が68%)、48歳³⁾、イタリアで29:16 (男性が64%)、56歳¹⁶⁾と報告されている。すなわち、男性が6~7割を占め、40~50歳代にピークがあるものと思われる。

病因、病態生理

乾癬が紅皮症に進展する原因としては、まずステロイドの過剰投与が重要である^{3,17,18)}。特に内服ステロイドは、紅皮症化、膿疱化の原因となるので、乾癬に対しては原則禁忌とされる³⁾。外用ステロイドも、強力なものを長期間使用すれば紅皮症化、膿疱化の原因となる^{3,17,19,20)}。そのほかに紅皮症化の原因として、感染、全身的な疾患の合併、過剰な紫外線照射、精神的ストレス、アルコール過剰摂取、薬剤性の要因などが挙げられている (表2)³⁾。外用ステロイドや紫外線のように乾癬の治療法として重要なものが、度を越せば紅皮症の原因となるということは、十分認識しておくべき重要な

表2 乾癬性紅皮症 50例における紅皮症化の原因

1. 全身性疾患	11
2. 治療	
ステロイド全身投与	14
外用ステロイドの過剰使用	11
PUVAによる熱傷	6
メトトレキサートの中絶	4
UVBによる熱傷	2
タール過敏症	1
3. 精神性ストレス	
家族の病気・死	11
仕事上の大きなストレス	7
家族内あるいは経済的な圧力	6
4. 医学的疾患プラス精神的ストレス	12
5. その他	
アルコール依存	3
日焼け	3
歯の感染症	2
交通事故	2
人工肛門のトラブル	1
虫刺症	1
6. なし	14

複数の要因がある例が含まれているので合計は50を超える。

(Boyd AS, et al, 1989³⁾より引用)

表1 乾癬による紅皮症の紅皮症全体に占める割合

報告者	報告年	例数 (%)
外国		
Abrahams ら ⁴⁾	1963	16/101 (15.8)
Nicolis ら ⁵⁾	1973	4/135 (3.0)
Hasan ら ⁶⁾	1983	5/50 (10.0)
Sehgal ら ⁷⁾	1986	25/80 (31.3)
Botella-Estrada ら ⁸⁾	1994	24/56 (42.9)
Sigurdsson ら ⁹⁾	1996	9/102 (8.8)
Pal ら ¹⁰⁾	1998	34/90 (37.8)
日本		
重見ら ¹¹⁾	1973	40/424 (9.4)
堀尾ら ¹²⁾	1985	7/67 (10.4)
厚坂ら ¹³⁾	1989	8/44 (18.2)



図1 乾癬の特徴を残す症例（73歳、男性）

a: 殿部, b: 下肢

厚い鱗屑を付した乾癬に特有な皮疹が残る。長年の乾癬の病歴があるが、最近まったく通院せず治療をしていなかった例。ステロイド外用のみで軽快した。

ジレンマである。

臨床症状 (図1, 2)

全身の潮紅がみられ、落屑が著明である。よくみると部分的に乾癬としての特徴をもつ皮疹が残っていることが多いが、ときにまったく失われてしまうこともある。膿疱を伴うこともあり、汎発化すると膿疱性乾癬との異同が問題となる。大部分の例で爪の変化を伴う。悪寒、発熱、浮腫、全身倦怠感などの全身症状をみることも多い。

病理所見

錯角化を伴う過角化、表皮肥厚、Munroの微小膿瘍、Kogojの海綿状膿疱、顆粒層の消失、表皮突起・真皮乳頭の延長、真皮乳頭層の毛細血管の拡張など、乾癬としての病理組織像がみられるが、組織採取の場所や時期によってはそれらの特徴がはっきりしないこともある。その場合でも、真皮乳頭層の毛細血管の所見は常にみられるという¹⁶⁾。診断に役立つ組織像を得るためには、皮疹をよく観察して生検の場所と時期を選ぶことが重要である。

診断

乾癬が明確に先行した症例では診断は比較的容易であるが、たとえ乾癬の既往があっても皮疹に乾癬としての特徴が失われている場合には、外用薬による接触皮膚炎や薬疹による紅皮症な



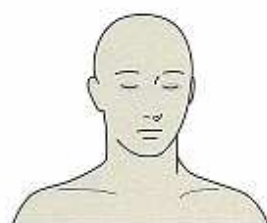
図2 ステロイド外用薬長期使用の症例（31歳、男性）

very strongのステロイド外用薬を長期大量に使用している例。皮疹に乾癬としての特徴が乏しい。カルシポトリオール軟膏の併用によりステロイドの使用量を減らし、シクロスポリン内服を加えて軽快した。

どの可能性を除外しなければならない。乾癬の先行がないか、あるいははっきりしない場合は難しくなるが、皮疹の臨床像、組織像に乾癬に特徴的なものが残っていれば、診断できる。それもはっきりしない場合には、乾癬以外の原因

神経堤起源細胞系母斑

英 divided nevus
同 分割母斑



分離母斑

定義、概念

上下眼瞼にまたがって存在する色素性母斑で、閉眼時には1つの類円形の母斑にみえ、開眼すると眼裂により上下2つの母斑に分離されるものを指す¹⁾。ほとんどは先天性であるが、まれに高年齢で生じた報告もある。

病因、病態生理

分離母斑は、上下眼瞼が癒合している胎生 15

週までに眼瞼部に母斑細胞が侵入・定着し、その後、眼瞼の分離とともに母斑細胞も上下眼瞼に分離して存在することとなり発生すると考えられている¹⁾。

臨床症状

出生時より存在する眼周囲の黒褐色斑または結節で、閉眼時には1つの病変にみえるが、開眼時には眼裂により2つの病変に分割される(図1)。

臨床形態より4型に分類される²⁾(表1)。

同様の機序でまれに陰茎にも発生し、この場合には冠状溝をはさんで亀頭部と陰茎に色素性病変が分割される³⁾。

病理所見

多くは複合母斑であるが、境界部母斑、真皮内母斑もありうる。

診断、鑑別診断⁴⁾

色素性病変が片側の上下眼瞼にまたがって存在すること、出生時より存在すること、色が黒褐色であること、眼球結膜には色素性病変を認めないことから、太田母斑、固定薬疹、血管腫と鑑別が可能である。

治療

根治を希望する場合には単純切除・縫合(1回または複数回)、切除・植皮が行われてきたが、今後はレーザー治療の適応もあると考えられる。

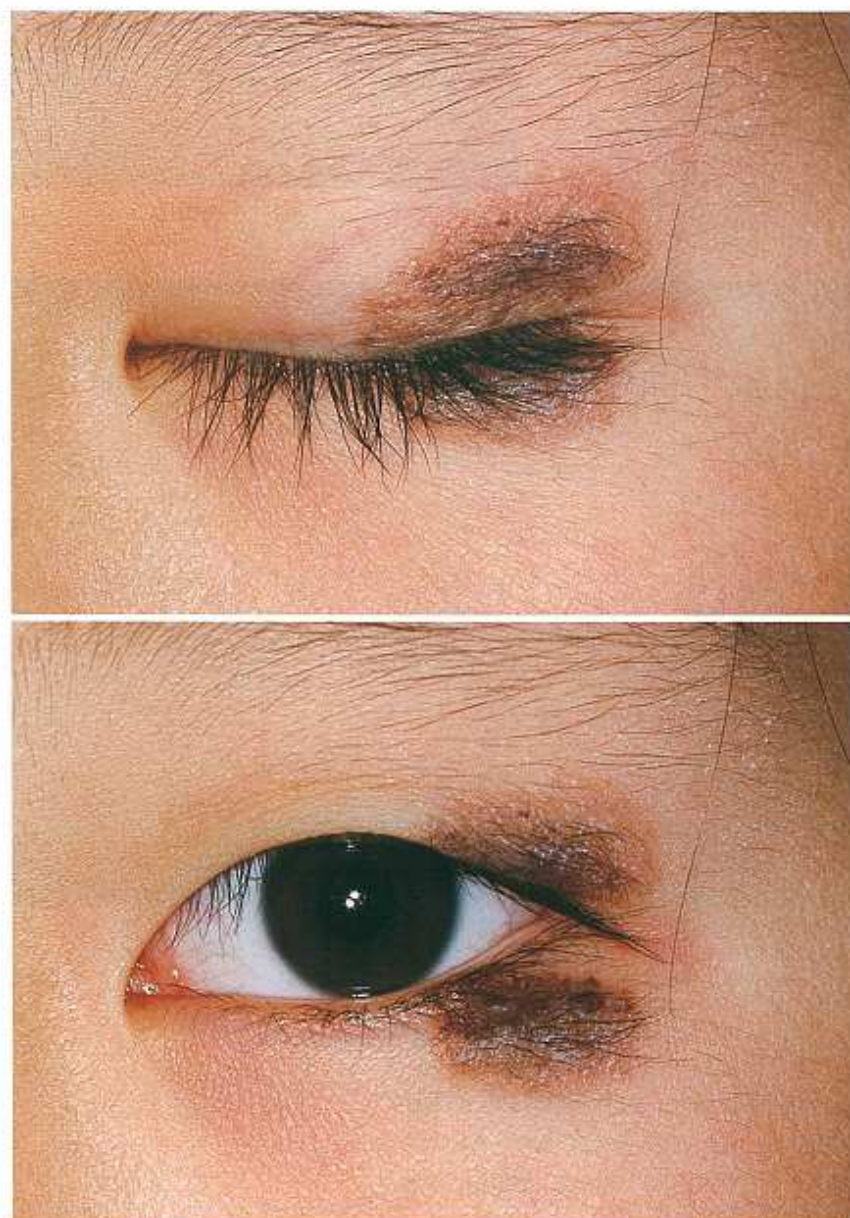


図1 分離母斑(完全分離型)(7歳、女児)
上下眼瞼に黒褐色斑が存在するが眼角部での連続性はない。

表1 分離母斑の分類

1. 全眼瞼型	眼瞼縁全体が母斑で占められるもの
2. 外眼角型	母斑の一部が外眼角部で連続しているもの
3. 内眼角型	母斑の一部が内眼角部で連続しているもの
4. 完全分離型	上下に完全に分離し連続性のないもの

部分脂肪腫性母斑

— 定義, 概念

母斑細胞母斑の病理組織学的一重型で、母斑細胞に混じて脂肪細胞様細胞を認めるものをいう。

— 病因, 病態生理^{5a)}

母斑内の脂肪細胞様細胞の出現は小児ではまれで年齢とともに頻度が高くなること、当初は褐色ないし黒褐色で、その後、淡褐色または常色に変化した母斑に比較的多くみられることなどから、母斑の退行性変性の一つと考えられている。電顕的観察により、これら脂肪細胞様細胞の周囲の母斑細胞の細胞質に大小の脂肪滴が認められることから、母斑細胞中に存在する類脂質が母斑細胞巢の変性・崩壊とともに中性脂肪へと変性したと推定されている。

— 臨床症状

頭頸部に生じる色調の淡い隆起性の母斑細胞母斑に多い (図 2a)。色調が常色に近く、隆起度が著しいほど脂肪細胞様細胞の出現頻度は高い。しかし、臨床症状からこの診断名を下すことはできない。

— 病理所見

ほとんどが基本的には真皮内母斑で、母斑組織の真皮中層から深層に母斑細胞より大型の脂肪細胞様細胞が孤立性に散在、または集塊として認められる (図 2b, c)。これらの脂肪細胞様細胞は各種脂肪染色 (ズダン III, ズダンブラック B など) に陽性反応を示す。

— 診断, 鑑別診断

成人期以降の頭頸部に存在する隆起性の母斑

英 nevus nevocellularis partim lipomatodes

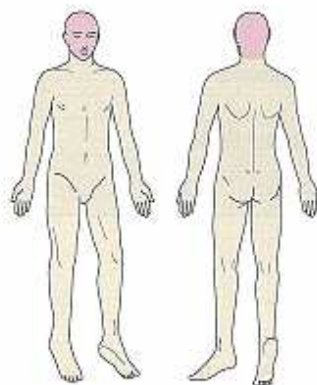


図 2 部分脂肪腫性母斑 (52 歳, 男性)

a: 頭部: 淡褐色, 光沢を有する弾性軟の結節がみられる。
b: 病理組織像 (HE 染色)。真皮内母斑で、母斑組織の深い部分に大型の脂肪細胞様細胞が孤立性に散在、または集塊として認められる。
c: 病理組織像 (HE 染色, 強拡大)。脂肪細胞様細胞は大小不同で核は偏在し、周囲の母斑細胞の細胞質にも泡沫状変化が認められる。

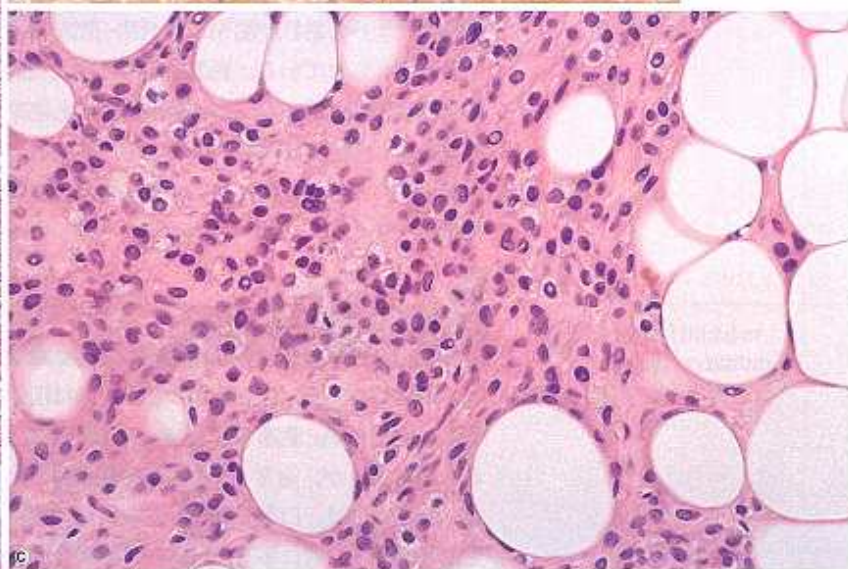
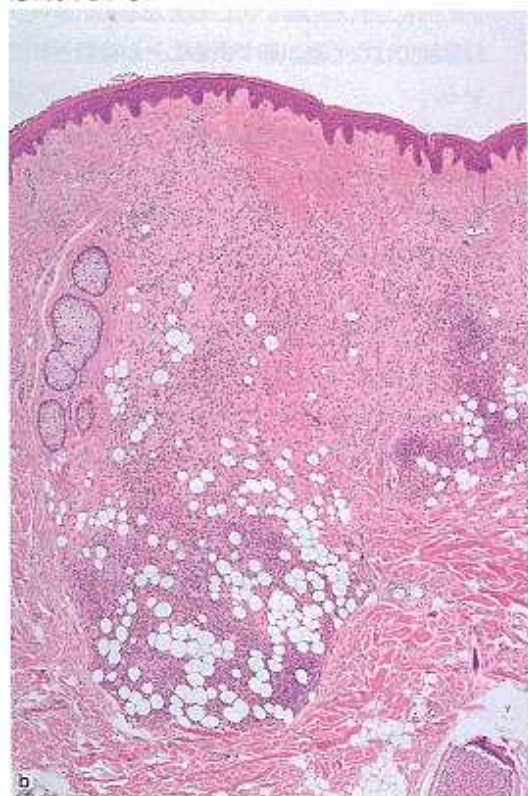


表4 カフェオレ斑を呈する症候群

疾患	遺伝	色素斑	その他の症状	責任遺伝子
McCune-Albright 症候群	後天性	腰部、殿部、頂部に好発	骨炎、性早熟を伴う内分泌異常	Gsa 遺伝子 (GNAS1) の Arg ²⁰¹ の Leu への変異の結果、恒常的に cAMP の活性化
Watson 症候群	常染色体優性	多発	精神発達遅滞、低身長、肺動脈狭窄、神経線維腫症の一亜型	17q11.2
Bloom 症候群	常染色体劣性	多発	SLE 様紅斑および毛細血管拡張、低身長、免疫不全、悪性腫瘍 (重複癌)	15q26.1, DNA ヘリカーゼが欠損、姉妹染色分体の交換が高率

英 Peutz-Jeghers syndrome
同 hamartomatous intestinal polyps- and spots syndrome, syndrome de Peutz, lentiginose periorificiale et polypose viscérale, Hutchinson-Weber-Peutz syndrome, Peutz-Touraine syndrome, Peutz-Jeghers-Touraine syndrome, Kitamura phakomatosis

MIM #175200

Peutz-Jeghers 症候群

定義、概念

Peutz-Jeghers 症候群は、①口唇、頬粘膜、手掌・足底の小色素斑、②小腸を主とする消化管ポリポース（過誤腫）、の2つの徴候をもつ常染色体優性遺伝性疾患である。1896年の Hutchinson、1919年の Weber の報告を経て、1921年に Peutz により10例の本症候群が報告された¹⁾。本症候群の概念は1949年の Jeghers らの報告によって確立されるに至った²⁾。

疫学

男女間に有意の差はない。日本では420例以上が報告されている。

病因、病態生理

染色体19p13.3のマーカー近傍の *LKB1* (*STK11* と呼称される) 遺伝子が原因遺伝子であることが明らかにされた²³⁾。セリン/スレオニンキナーゼをコードする遺伝子で、元来の欠失に加え、正常対立遺伝子に異常が生じると、*LKB1* キナーゼ活性が消失し、ポリープが発生すると考えられている。過誤腫からの癌化機構の詳細は不明であるが、本症候群以外の乳癌や肺癌などの腫瘍部においても *LKB1* 遺伝子の欠失が見いだされていることから、*LKB1* は癌抑制遺伝子としての働きをもつとされている⁴⁾。

臨床症状¹⁾

色素斑は思春期まで増加傾向を示すが、その後は消退してくる。口腔粘膜の色素斑には消退する傾向がない。大きさは径5～6mmに達するものもあるが、通常2～3mm前後、黒褐色ないしは黒色で、口唇ではこれが縦に配列する。上口唇より下口唇に多く、口唇から連続して口

囲に及ぶ(図1a)。口腔粘膜では頬粘膜にみられ、歯列に沿って配列する(図1b)。歯肉に出現することはあるが、硬口蓋や舌に出現することはまれである。手では手掌よりもむしろ指腹、特に末節に多い(図1c)。足では土踏まずの部は少なく、その部を除く足底と趾腹に出現する(図1d)。眼瞼、結膜にも色素斑のみられることがある。爪甲に縦走する線条を生じることがある。

ポリープは胃、十二指腸、小腸、結腸、直腸のすべてにわたり出現しうるが、最も多いのが小腸、特に空腸である。ポリープは分葉構造をとることが多いことから、他のポリポースと形態学的に区別しうる。本症候群と診断される平均年齢は24、25歳ごろであるが、その主訴が主として消化管症状であることから、ポリープが発見されるのもこのころとなる。ポリープは腺腫ではなく過誤腫であることが確認されている。

乳癌、子宮頸癌、肺癌、精巣・卵巣腫瘍が比較的若年で発症する。消化管では過誤腫の部の癌化が2～13%の頻度でみられるが、全体としての癌化率は50%に達するとされる。

病理所見

色素斑部では、表皮基底層にメラニンの増加がみられる。樹枝状突起の延長が認められるが、メラニン顆粒の角化細胞への輸送障害像が観察されている。粘膜筋板の樹枝状増生と異型性のない腺管上皮の過形成が特徴的である。

検査

消化管 X 線造影および内視鏡によるポリープの検査が必要である。

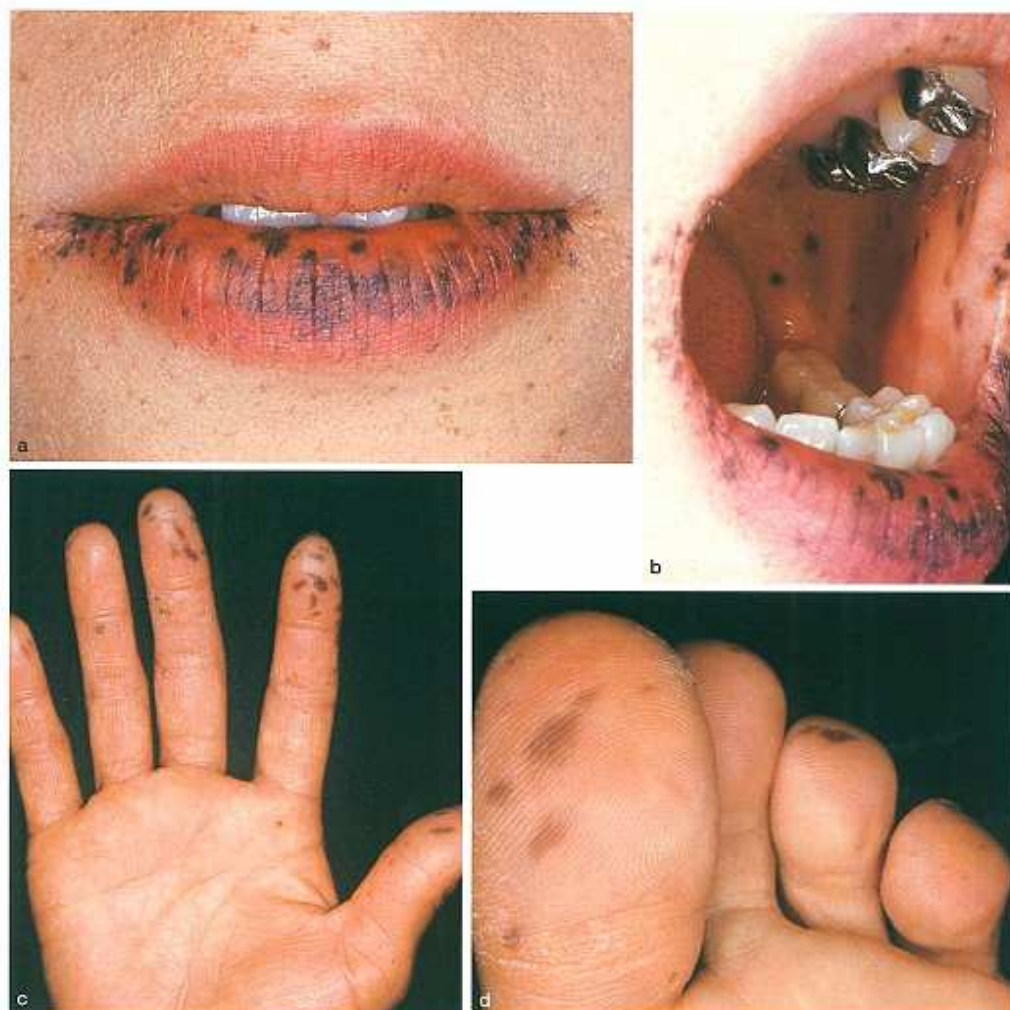


図1 Peutz-Jeghers 症候群の臨床像(37歳, 女性)

a: 口唇の色素斑。下口唇に多くみられる。
b: 口腔粘膜の色素斑。頬粘膜と口角に多い。

c: 手掌の色素斑。手指末節に多い。

d: 足趾の色素斑。長軸は趾紋の流線方向に一致する。

(福岡県, 永江祥之介先生より提供。皮膚臨床 1997; 39 (7) 初出)

診断, 鑑別診断

本症候群は口唇および掌蹠色素斑と消化管ポリープから診断される。鑑別すべき疾患として次のようなものがある。

▶ Cronkheit-Canada症候群

消化管ポリープを有する点は類似であるが、粘膜に色素病変は認められず、手背にびまん性の色素斑がみられるなど、色素斑の性状が異なる。ほかに、脱毛、爪の萎縮などがみられる。通常 50 歳以上で発症する非遺伝性疾患である。

▶ Laugier-Hunziker症候群

皮膚と粘膜の色素斑の性状は類似するが、消化管のポリープはみられない。

▶ LEOPARD症候群

全身性に黒子が分布してみられる。肥大型心筋症などを伴う。

▶ NAME症候群/LAMB症候群/Carney complex

色素斑の形状はよく似るが、粘液腫を伴う。

治療, 経過, 予後

色素斑に対しては、放置するか切除治療となる。ポリープに対しては、ポリペクトミーによる検査および治療を行う。死因は 30 歳未満ではポリープによる腸重積や出血などであるが、30 歳以上では、70 % が癌死である。

Laugier-Hunziker (-Baran) 症候群

定義, 概念

Laugier-Hunziker (-Baran) 症候群は後天性の色素異常症で、縦走する爪甲色素線条、口唇、口腔内、外陰部の色素斑が特徴的である。1970

年に Laugier と Hunziker により記載され⁵⁾、1979 年に Baran⁶⁾により臨床的概念が明らかにされた疾患である。

英 Laugier-Hunziker (-Baran) syndrome



症例写真 供覧

本大系に掲載されている症例写真
よりその一部を紹介します。



全巻の構成

- ① 皮膚科診断学
- ② 皮膚科治療学 皮膚科救急
- ③ 湿疹 痒疹 癩痒症 紅皮症 蕁麻疹
- ④ 紅斑・滲出性紅斑 紫斑 脈管系の疾患
- ⑤ 薬疹 中毒疹
- ⑥ 水疱症 膿疱症
- ⑦ 角化異常性疾患
- ⑧ 色素異常症
- ⑨ 膠原病 非感染性肉芽腫
- ⑩ 内分泌・代謝異常症 脂肪組織疾患 形成異常症 異物沈着症
- ⑪ 母斑・母斑症 悪性黒色腫
- ⑫ 上皮性腫瘍
- ⑬ 神経系腫瘍 間葉系腫瘍
- ⑭ 細菌・真菌性疾患
- ⑮ ウイルス性疾患 性感染症
- ⑯ 動物性皮膚症 環境因子による皮膚障害
- ⑰ 付属器・口腔粘膜の疾患
- ⑱ 全身疾患と皮膚病変
- ⑲ 皮膚の発生・機能と病態

特別巻 ① 新生児・小児、高齢者の皮膚疾患

特別巻 ② 皮膚科症候群

特別巻 ③ 炎症性皮膚疾患の病理診断 (仮題)

別巻 総索引・総目次

※若干の変更があることもございますので、ご了承ください。



A4判／上製函入／オールカラー／
本文横2段組／各巻平均300頁

全巻ご購入読者への無料贈呈書架
(幅55cm、高さ90cm、奥行27.5cm)

中山書店

〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14
フリーダイヤルTEL：0120-377-883
フリーダイヤルFAX：0120-381-306
ホームページ <http://www.nakayamashoten.co.jp/>

取扱書店